



愛知陸協広報

第34号

平成26年11月25日発行

一般財団法人 愛知陸上競技協会

〒460-0012 名古屋市中区千代田二丁目19番16号千代田ビル7F

電話 (052) 249-4363 ファックス (052) 249-4366

ホームページ: url <http://www.aichi-rk.jp/>

平成26年度上半期を振り返って

専務理事 稲垣 裕

協会では年間約50を超える競技会の主催、共催、協力事業を実施しています。トラック&フィールドの競技会は、ほぼ終了し、今年も大過なく順調に競技会運営が行なわれてきました。愛知陸協の役員、審判員その他関係者の皆さんに改めて感謝とお礼を申し上げます。今後も12月に愛知駅伝、2月に犬山ハーフマラソン、3月にマラソンフェスティバルが予定され、多くの審判員の協力が必要となります。今後とも愛知陸協の諸事業に対し格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

7月開催の愛知選手権では、競技会運営に長年ご尽力された方々に会長表彰が行なわれ、8名の方が受賞されました。お祝い申し上げますと共に、今後の更なるご活躍を期待しております。続いて中学・高校優秀選手として、及川文隆選手（愛知高一東洋大）、掛川栞選手（沓掛中一安城学園高）が表彰されました。若い二人の成長を楽しみにしております。

昨年はモスクワ世界選手権で入賞した室伏広治選手（ハンマー投・ミズノ）と山本聖途選手（棒高跳・トヨタ）の活躍が注目を浴びましたが、今年も日本代表として、国際大会に多くの県内選手が出場しております。5月に第1回世界リレー選手権がバハマで開催され、市川華菜選手（ミズノ）が4×100mRの第4走者として出場、6月に台北で開催の第16回アジアジュニア選手権では男子10000mWで及川選手が大健闘し優勝しました。7月にアメリカで行なわれた第14回世界ジュニア選手権に鈴木康太選手（棒高跳・中京大）が出場。8月に中国で開催の世界ユースオリンピックでは森 風紗選手（名城大附高）が女子やり投で3位銅メダルと快挙を成し遂げました。また、9月から10月にかけて、第17回アジア競技大会が韓国で行なわれ、10種競技で中村明彦選手（スズキ浜松AC）が3位、市川選手が4×400mRで2位、4×100mRで3位と大活躍しました。また、金メダル獲得の有力候補であった山本選手が棒高跳に出場しましたが、入賞できませんでした。

国内では、6月に福島で第98回日本選手権が開催され、男子ハンマー投で室伏選手が20連覇の大偉業を成し遂げました。彼の日々の精進に対し心より敬意を表します。10月の長崎国体では、天皇杯6位、皇后杯4位と本県の底力が発揮され好成績を収めることができました。個人では少女A100mで柴山沙也香選手（至学館高）が県高校新記録で優勝、また女子4×100mR（臼田、市川、柴山、丹羽）も念願の優勝を果たしました。特にリレーは、その県の陸上の総合力を表すもので、来年の一層の飛躍を期待したいと思います。国体開催中にメインスタジアム前で表彰式があり、本県の若松良一氏が秩父宮章、森 安彦氏が高校優秀指導者章、久米裕朗氏が中学優秀指導者章を受章されました。心よりお慶び申し上げます。

今年は愛知陸協創立80周年の記念式典を11月25日に実施いたします。協会では、それに向けて準備を進めて参りました。皆様方の当日のご参加を心よりお待ちしております。



祝 愛知陸協創立80周年

専門委員会報告

総務委員会

2014年愛知県内のトラックシーズンの掉尾を飾る、日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会が、10月3～5日に開催されました。この大会を開催するにあたり、7月末より準備を進め、万端の体制で臨みました。この間、多くの方々にご尽力いただき、本当に有難うございました。注目された桐生選手の欠場はありましたが、日本高校新記録(2)、大会新記録(11)、大会タイ記録(5)が出るなど大いに盛り上がりのあるものとなりました。無事に終了でき、本委員会もほっとしているところです。しかし、ほっとするのも東の間、今度はロードレースのシーズンになります。これらの大会準備へ気持ちを新たにしているところです。また、マラソンフェスティバルに向けても、実行委員会と連携を取りながら大会運営ができるよう進めてまいります。

2014年度の登録も11月末で終了となります。昨年にも増して、新規団体・個人登録も増えています。県全体につきましては、またの機会に報告させていただきます。

(水野 隆夫)

競技・情報処理委員会

2014年10月3日～5日に開催された、日本ジュニア・ユース選手権大会へのご協力ありがとうございました。今年度で5回目となりましたが、国体との関係で開催日が例年より2週間早く、各地区の大会日程も変更していただくなど大変迷惑をかけたことができたのではないかと思います。

現在、競技委員会では様々なロードレースの準備を行ないながら、来年度の競技会日程の調整準備に入りました。全国大会や東海大会の日程を基本とし、県大会や地区大会を編成していきます。特に瑞穂公園陸上競技場ではJリーグとの関係もあり、制約された条件の中で大会の重なりをできる限り無くしていきたいと思っております。競技者の利便性など多くの条件の中で競技日程を決めていくのは難しいのですが、多くの方々の協力を得て調整を行ないます。

2015年度は、6年連続となる日本ジュニア・ユース選手権大会が県レベル・地区レベルの大会日程に影響が出ないようにしていくつもりですが、日程の変更や会場の変更をお願いしなければならない大会もあると思われれます。ご理解、ご協力のほど、よろしくお願い致します。

地元で大きい大会を開催し、一流のアスリートの競技を愛知の競技者に見せることは、モチベーションを高め、競技力の向上にもつながることと思います。競技運営や準備などへのご協力をよろしくお願い致します。(榊原 茂)

施設・用器具委員会

伝統のある元旦競歩22年ぶりに瑞穂へ戻る！

「ピンチはチャンス。新しいことの産みの苦しみ」
— 瑞穂公園陸上競技場付設競歩路新設検定に向けて —

1. 経過について

2014.9.11	庄内緑地公園競走路競歩路公認継続のための現地確認調査 * 昨年から陸上競技場発着・噴水コースは管理者から許可下りず。ロード上にスタート地点フィニッシュ地点を決めるが、その後これも許可下りず。
9.15	日本陸連へ公認継続のための申請書を作成して郵送する。
9.19	日本陸連施設用器具委員長から、申請書はルールに合っていないので認められないと連絡あり。庄内緑地の小周りコースで申請するが、管理者から許可が下りない恐れがあり、平行して瑞穂周辺コースの5案を検討作成。「大ピンチ」 *3月の審判伝達講習会で説明がなかった。ルールブックを見ると、4月から周回コースは最短1kmから最長2kmで設営となっている。継続検定の時期でなかったらルール改正を誰も知らず、元旦競歩の大会を庄内緑地公園で実施しても公認記録にならず大変なことになっていたかも? 「大ピンチ」
9.20～21	瑞穂周辺で5つのコース案を現場で調査・確認する。「大チャンス」
9.26～10.30	瑞穂周辺で競歩路のコース案を瑞穂警察交通課に指導を6回受け、瑞穂管理事務所、名古屋市教育委員会スポーツ振興課、コースに関係する弥富地区、豊岡地区、陽明地区の区政委員長等に説明し、理解していただいた。瑞穂警察交通課を始め、足を運んだ回数は15回となる。
10.26	日本陸連へ公認継続のため申請書を再作成して、委員長の了解を得る。 ワイヤー計測承認を日本陸連施設用器具委員長にお願いする。
11.16	コース検定(青木・平川・南)

2. 今後、大会実施に向け、公道を使用するために多くの課題を一つ一つクリアーして、愛知陸協基幹役員を中心に全員で一致協力して頑張りましょう。それは、①交通制限のため地域住民の理解を得る活動 ②大会要項の変更周知 ③競技役員の配置 ④交通整理員の配置 ⑤競技役員の意識向上 ⑥公認コースのための検定等があります。新しいことを実現するために、「ピンチはチャンス。伝統ある元旦競歩を瑞穂へ戻すチャンスは今しかない、チャンスを逃すな」「失敗は許されない」「二度と公道は使用できない」と…。



公認競歩路の左右田橋付近

クラブ紹介⑳ Team Ai (チーム アイ)

チーム アイ
Team Ai というのは、クラブチームとしての正式な登録名ではありません。幅広い年齢層のマスターズのメンバーが、様々な地区から集まり練習会を開いている、そのメンバーや会を Team Ai と呼んでいます。4年前にスポレク全国大会に愛知の代表で出場させていただいた際に、一緒に出場した他のメンバー達の話から練習場所や練習方法、仕事をしながらの1人の練習の難しさ等、皆が似たような悩みを大なり小なり抱えていることがわかりました。それでこの大会に出場したメンバーで定期的に練習会を開き、練習後に情報交換のミーティングをするようになったのが活動の始まりです。最初は1ヶ月に1回のペースで、メンバーも10名程でした。シーズン中の主な活動拠点は、県営一宮総合グラウンドで、オフシーズンは内海や新舞子の砂浜などで活動しています。

全日本マスターズでも上位入賞者、日本記録保持者がメンバーに多いこともあり、皆志が高く練習量も質も高校生並みの内容をこなしています。最近では、そんなおじさん、おばさん達の練習に、中学生や高校生、大学生が「一緒に練習させてください。」と声をかけてきてくれる事も多く、お互いが良い刺激となっています。9月に行われたアジアマスターズメンバーが女子年代別4×100mRという種目で1走50歳、2走40歳、3走48歳、4走34歳の51秒65の日本記録を出した話をする、「マスターズの年齢になったら一緒にリレーを走って、その記録を破りたいです」と

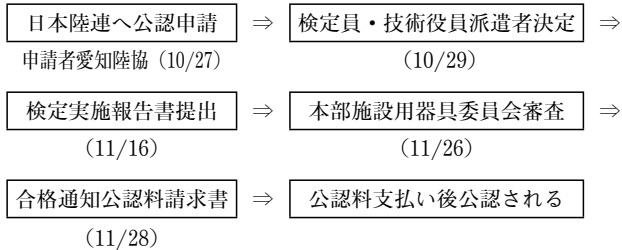
いう頼もしい言葉に、ますますいつまでも頑張らなくては、と心を奮い立たせられています。

現在は毎週末ソーシャルネットワークにて練習案内を発信し、集まれるメンバーにて行なっています。メンバーも50名以上になり、仕事や家庭の都合で全員が集まることは難しいのですが、「いつでも」「どこでも」「誰とでも」「楽しく」をモットーに、この練習会を継続できればと思っています。そして、この横のつながりが他県にはない愛知マスターズの団結力の一助になっていれば嬉しく思います。(宮本 百合)



連絡先は、宮本 (0586-81-6797)、または
佐野 (0566-52-5899) へ

3. 【瑞穂公園陸上競技場付設競歩路の公認コース認定の流れ】



【広報第33号の訂正】規則165号条-15「マーキング」
(誤) 25 mm ⇒ (正) 20 mm
(青木 実)

審判委員会

10月3日(金)から5日(日)まで3日間、瑞穂公園陸上競技場にて日本ジュニア・ユース選手権大会が開催されましたが、多くの審判員の方の協力を得て無事に終了することができました。ありがとうございました。3日間の審判員数は1日目(金)が252名、2日目(土)は294名、3日目は287名でした。昨年と比べ1日あたり20名~30名少なく、どの部署も審判員不足でご迷惑をおかけしました。

来年3月には4回目となるマラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2015が開催されます。700名ほどの競技審判員が必要となります。日本ジュニア・ユース大会同様、多くの方のご協力をお願いします。

また、本年度新たに公認審判員の方が60名(前期26名・

後期34名)資格を取得され加わりました。来年度から正式に活躍されますが、研修を兼ねて今年度の大会にも参加しますので、よろしくご指導をお願いします。(小森 好治)

選手強化委員会



勢ぞろいしたチーム愛知のメンバー

昭和44年の第24回長崎国体は、愛知にとって初の天皇杯第1位の栄誉に浴した大会でした。教員の部(現在の成年の部は当時青年と教員に区分けされていた)の100m、400mの2種目で坂井田醇三先生(現名古屋地区陸協会長)が2位で10点を獲得し(当時は1位6点、6位が1点)、青年三段跳では前愛工大名電高監督の石原民雄先生が3位となっています。この三段跳の優勝者は北海道ハイテクACの中村先生(福島千里選手のコーチ)で、5位の三宅日本陸連副会長等この大会で活躍した選手が現在の陸上界を支えておられます。もちろん現役の選手はそれらの方々の活躍を知る術もなく、さらに若いコーチは内山田洋と

クールファイブの「長崎は今日も雨だった」も知らない世代です。新しい世代が新たな愛知の歴史を構築する期待感を持って快晴の長崎で大会第1日が始まりました。

今回成年、少年Aに出場する半数の選手が県(高校)記録保持者であり、これらの選手が自己ベストを出せば予想順位の9位を確実に上回れます。監督会議で尾懸貢日本陸連専務理事から「狙った重要大会で自己ベストが出せる選手を育成していただきたい」との要請がありました。実はこの要請がチーム愛知の今回の目標を「自己ベストの更新」としたことと一致していました。「自己ベスト更新」をテーマとして大会がスタートしました。

今大会の最初の決勝種目は少年女子B走幅跳でした。国体強化部長であり短距離主任である明星先生の次女である明星光選手(豊田高)が自己ベスト更新の5m79で7位入賞。トップバッターが先ずチーム目標を達成してくれました。少年Bは中学3年と高校1年の部、優勝記録が5m97で8位5m73と少年Bとは思えないようなハイレベルな戦いの中での自己ベストでした。成年男子走幅跳には今季7m88をマークしている木村友紀選手(春日井中部中学教)が自身3度目の国体で初の入賞を果たしました。今後も教職と競技の両立を図り、8mを目指します。

この日のハイライトは少年男女Aの100m決勝でした。男子は今季高校ランク1位、インターハイ3位の近藤晃選手(愛工大名電)と、女子は日本ユース2位の柴山沙也加選手(至学館)がそれぞれ決勝進出を決めました。中野真琴選手(安城学園)の故障によるエントリー変更で急遽出場が決まった柴山選手ですが、予選で追い風参考ながら11.74をマークし日本ユースからの好調を維持しています。決勝はインターハイチャンピオンのエドバー・イヨバ選手(東京)とアジア大会代表の青山聖佳選手(鳥根)との三つ巴が予想され、好スタートから抜けだした柴山選手が青山選手の追い上げから逃げ切り優勝。男子も近藤晃選手がインターハイよりひとつ順位を上げた第2位でした。少年男子B砲丸投の白藤聖陽選手(安城学園)はベスト記録を投げましたが、8位と同記録の9位。セカンド記録で決勝を逃しました。愛知にとって砲丸投は鬼門種目。白藤選手は久々に現れた、全国に通用する愛知のショットプッターとして大事に育てたいものです。

大会第2日のハイライトは投擲種目の男女少年のハンマー投と400mHでした。男子ハンマー投の県記録は室伏広治選手の84m86でももちろん日本記録。ジュニア日本記録も墨訓熙選手(中京大)が持つ68m99でこの種目は愛知のお家芸です。昨年からは始まった全国高校選抜大会で第2位となった大久保祥子選手(長久手)は今季、県高校記録を樹立しています。その記録に到達できれば優勝できるチャンスでしたが3位でした。男子の古旗崇裕選手(名古屋大谷)は体調を崩し発熱の中でのインターハイで成し遂げられなかった3位入賞を果たしました。もうひとつのハイライトであったのは男女の400mHです。10種競技を専門とする中村明彦選手(スズキ浜松AC)は、8台目からの強烈な追い上げでロンドンオリンピック代表を獲得した選手で、今年の世界選手権も同様のパターンのレースでセカンド種目ながら入賞しています。アジア大会で10種競技に出場し銀メダルを獲得した直後の国体で、今回もしっかりと追い上げを見せ4位入賞でした。少年女子は最終選考で出場が決めた岩田帆乃夏選手(中京大中京)が出場。この種目のキャリアがまだ浅くインターハイでは準決

勝で落選でしたが、今年から障害主任に就任した岡戸コチの「秋には期待が持てる」との推薦でメンバー入りした選手です。その予想通り東海選手権優勝、県新人大会新記録、日本ユース選手権3位と調子を上げ、60秒を切るベスト記録で第3位に入賞しましたが、インターハイ2冠のヘンプヒル恵選手に僅かの差で敗れたのが心残りであったレースでした。800m予選で岩田選手と同じ御幸山中学校出身の向井智香選手(至学館)は予選で自己新をマークして決勝に進出しましたが、決勝はタイムを落として6位でした。本大会での目標とした中学記録保持者である高橋ひな選手(兵庫)には勝ちましたが、インターハイ3位の順位を上回ることができませんでした。しかし、2年生である岩田、向井両選手には来年優勝の期待がもてます。

大会2日目を終えて快進撃の愛知でしたが、3日目は暗雲が立ち込めてきました。この雰囲気を一掃したのが成年女子10000m競歩の前川知美選手(三菱自動車岡崎)の積極的なレース展開でした。フィニッシュラインを通過した順位は4番目でしたが、8千メートルまで堂々先頭を歩きレースを牽引していました。前川選手は秋田国体(平成19年)の3000mWに少年Bで初出場し入賞。昨年より成年のカテゴリーで出場し、これで国体3大会入賞です。これから女子競歩は前川選手の時代がやってきそうです。成年女子競歩は継続して国体種目になると予想され、今後連続入賞が期待できる頼もしい選手です。また、成年女子100m(第3位)と400mのダブルエントリーで出場した市川華葉選手(ミズノ)が、セカンド種目の400mで54.14の県新記録をマークし第2位に入賞しました。日本代表でマイルリレーを走っている市川選手の400mはまだまだ記録更新が可能です。大会3日目の入賞はこの両種目のみに終わり、総合順位も下げましたが、予選が始まったリレーは男女優勝を予感させるタイムでした。特に男子は調整大会である私学祭でマークした県新記録を更に上回る39.43と夢の38秒台も視野に入りました。

大会第4日はモスクワ世界選手権7位、ロンドンオリンピック代表の山本聖途選手(トヨタ自動車)の棒高跳に期待が集まりました。アジア大会で不本意な結果に終わり、今シーズン最後の国内メジャー大会で結果を残したいところです。萩野選手(香川)と5m70の高さで一騎打ちの勝負となった山本選手でしたが、この高さをクリアできず第2位でした。今年国内タイトルを逃した山本選手ですが、モスクワで世界的ボウルターの仲間入りをした実績を来年の世界選手権、2016年のリオオリンピックで再現してもらいたいものです。大会第4日を終了して総合順位は第10位になり、最終日のリレーの結果で8位以内が可能となる状況になりました。

大会最終日の種目は、少年男女長距離種目とリレーです。この4種目で毎回総合順位が大きく変動するため、リレーの強化は国体において必須課題です。今回も京都がリレー種目を落とし入賞圏外に去ったことが、この事実を物語っています。少年B3000mと少年女子A3000mに選考できる選手が不在の本県は、最終日の種目であるリレーが大きな存在価値を持ちます。また、リレーの力がその県の強化の力と換言できると言われ、ジュニアオリンピックリレーの強化から国体リレーチームへの連携ができ、結果に結びついている愛知の強化は誇るべき活躍です。

男子が予選で県記録を更新して期待が高まる中、女子が先んじて優勝を成し遂げました。第1走者の白田菜々美選

手(中京大中京)の特長はブレない走りにあります。爆発力はまだ不足しているものの、予選から決勝までタイムをまとめる動きの再現化ができる選手です。100mも準決勝においてあと0.1秒で決勝を逃した走りをリレーにおいても再現させ、決勝までブレることなく第2走者の市川選手にバトンを渡すことができました。第2位になった北海道の第2走者は福島千里選手。100m同様福島、市川対決のままバトンは第3走者へ渡りました。愛知の第3走者は100m優勝の柴山選手、有力選手を第3走者に使えるオーダー編成はアンカー勝負に向けて大変有利となります。柴山選手からバトンももらった丹羽愛利彩選手(中京大)は、レース後何も覚えていないくらい一直線にどの県よりも先にフィニッシュラインを駆け抜けました。丹羽選手は今季全日本インカレで3位、11.68の県ランク1位記録を持っています。愛工大名電時代に鮮烈デビューをして、大学進学1年目で大きな仕事をしました。女子の優勝に大興奮のチーム愛知は、最終男子リレーにダブル優勝を期待して応援にも熱が入り、スタートを迎えました。国内ではトップレベルのダッシュ力を持つ西垣佳哉選手(法政大)は、国体直前の屋外60m記録会で6.68と従来の日本記録を更新しています。1走西垣、2走寺田健人(中京大)の大学生コンビは先行する作戦として昨年より継承している戦略です。その戦略どおり3走に渡る瞬間まではトップでした。しかし、この2-3走区間で痛恨のバトンミスにより先行して逃げ切る展開が崩れてアンカーに渡り、結果は4着でした。日本代表が勢揃いするアンカー勝負に近藤晃選手(愛工大名電高)はよく立ち向かいましたが、アジア大会メダリストの高瀬選手(静岡)の追い上げには叶いませんでした。男女リレーの得点で総合は10位から6位に上がり、皇后杯も4位となりました。

この長崎国体はコンディションに恵まれ、好記録が続出しました。これまで入賞ラインと考えていたレベルから、今後かなり高く見積もる必要のある種目も多く生まれました。入賞の可能性のある選手選考ではやはり好結果は期待できません。3位以内を確実に狙える選手から選考する基準からスタートしないと、目標である優勝の道は遠いと感じました。総合で入賞するのが当たり前とする愛知は、目標を「優勝」とする以外の選択はありません。男女の都道府県対抗駅伝同様、近い将来必ず優勝できると信じています。

大会期間中激励に駆けつけてくださった愛知陸協の皆様、支援コーチの先生方、深夜まで選手のケアに携わってくださったトレーナーの皆さん、各選手所属の監督・コーチの皆さんには厚く御礼申し上げます。(北村 肇)

記録委員会

今年も現在100を超える競技会の記録整理、記録公認申請を終えました。日本陸連が本格的に導入した電子媒体による申請が86競技会、紙媒体の申請が14競技会でした。電子媒体による申請には記録担当者の方々に負担をかけています。ありがとうございました。

8月には、1月から8月まで競技会のリザルトと整理済みランキング表との一回目の照合をしましたが、もう最終のまとめの時期がやってきました。11月には8月以降分の競技会のリザルトとの照合に入り、本格的に記録集の作成準備に入ります。各地域の記録担当者を始め、高校の部の整理を野口一昭さん、中学の部を名倉喜三郎さんの協力により

ランキング表ができあがります。発行は来年3月の予定です。

先の長崎国体では市川華菜さんの女子400mと男子4×100mRの2種目で県新記録を樹立。高校女子では100mの柴山沙也香さん、ハンマー投の大久保祥子さんが県高校新記録を樹立と活躍しました。

◎10月までに更新された愛知県新・タイ・最高記録等

(2014.7.6以降)

愛知県新記録

男子

100m	10.29	寺田 健人(中京大)	
		[第83回日本学生対校陸上競技選手権大会(熊谷) 9/6]	
200m	20.73	田村 朋也(中京大)	
		[第41回東海学生対校秋季選手権(長良川) 10/12]	
4×100mR	39.66	国体選抜	
		(西垣佳哉・寺田健人・中澤悠哉・近藤晃)	
		[第65回愛知県私学祭陸上競技大会(オープン)(瑞穂) 9/14]	
	39.43	愛知	
		(西垣佳哉・寺田健人・中澤悠哉・近藤晃)	
		[第69回国民体育大会陸上競技大会(長崎) 10/20]	

女子

400m	54.14	市川 華菜(ミズノ)	
		[第69回国民体育大会陸上競技大会(長崎) 10/21]	
10000mW	46.16.79	前川 知美(三菱自動車岡崎)	
		[第62回全日本実業団対抗(山口) 10/11]	

愛知高校新記録

男子

100m	10.36	近藤 晃(愛工大名電)	
		(県ジュニア新・東海高校新)	
		[第67回全国高等学校対校陸上競技選手権大会(山梨) 7/31]	

女子

100m	11.75	柴山紗也香(至学館)	
		[第69回国民体育大会陸上競技大会(長崎) 10/18]	
3000m	9.01.19	鷺見 梓沙(豊川)(県ジュニア新)	
		[平成26年度第1回静岡長距離強化記録会(小笠山) 6/28]	
	9.00.89	鷺見 梓沙(豊川)(県ジュニア新)	
		[平成26年度第3回静岡長距離強化記録会(小笠山) 10/11]	
3000m障害	11.18.61	水谷 百花(中京大中京)	
		[第74回愛知陸上競技選手権大会(瑞穂) 7/20]	
4×400mR	3.44.73	愛知	(県ジュニア新)
		(一ノ瀬安葉・伊藤里帆・吉田紗弓・梶浦みずき)	
		[第67回全国高等学校陸上競技選手権大会(山梨) 8/3]	
	3.44.93	至学館	(県ジュニア新)
		(柴山沙也香・大蔵伊織・向井智春・宮脇玲菜)	
		[第67回全国高等学校陸上競技選手権大会(山梨) 8/2]	
ハンマー投	50.17	大久保祥子(長久手)	
		[第82回大阪陸上競技選手権大会(長居) 6/27]	
	51.74	大久保祥子(長久手)(県ジュニア新)	
		[第74回愛知陸上競技選手権大会(瑞穂) 7/20]	
	53.13	大久保祥子(長久手)(県ジュニア新)	
		[第2回全国高等学校陸上競技選抜大会(長居第二) 8/30]	
	49.20	大久保祥子(長久手)	
		[平成26年度第2回中京大学土曜競技会(中京大) 8/2]	
	49.68	大久保祥子(長久手)	
		[第65回愛知県私学祭陸上競技大会(オープン)(瑞穂) 9/14]	
	51.16	大久保祥子(長久手)(県ジュニア新)	

学校訪問②④ 大高中学校 県中学総体女子総合優勝

今回は、夏の県中学総体女子の部で総合優勝を果たした大高中学校を訪問しました。大高中学校は、秋のジュニアオリンピックの全国大会に女子3人(200m、100m ハードル、円盤投)を送り込んでいます。個々の力に部全体の総合力が合わされた結果の総合優勝だったのでしょうか。いつものように、「強い学校には何かがある」との思いで取材をしました。

訪問したのは10月の終わりで、ほぼ1・2年生のみという体制での活動でしたが、男女合わせて60名ほどの部員が活動していました。やっぱり強い学校は部員数が多いのだなと思いましたが、それはこちらの早とちりでした。名古屋市内の中学校は部への参加が自由制で、どの部も部員の確保には苦勞をしているとのことでした。陸上部も実は創部5年目で、現在の1・2年生になってやっと大所帯になったのだそうです。浅井先生が5年前に赴任されて部を立ち上げ、翌年に仲田先生が加わって急激な成長を遂げたその結果が夏の総合優勝だったのです。立ち上げの年は数名の部員しかいなかったそうですから、急激な成長と言ってよいのだと思います。3年めに全国大会へ初めて選手を送り出し、それが今年まで3年続いてきているとのことでした。先輩が築いた結果が下級生の憧れとなり、先輩を慕って加入する部員が増えた結果が今の部員数になったのでしょうか。今後爆発的な活躍を見せるのではないか、そう思わせる右肩上がりの状況だなと私には思われました。

ここまで急激に成長を遂げたからには強くなるだけの理由があると思って練習を見学しました。そこから得られた事柄を3点報告します。



広いグラウンド

一つめは、練習環境です。名古屋市内の学校としては、グラウンドがかなり広いように思われました。学校創立時に学校公園という構想で作られたグラウンドですので、面積的に大きなものがあります。そのうえ部活の数がそれほど多くはなく、150mのトラックは他の部との重なりが全くありません。独占状態と言ってよいのです。たまにサッカーボールが転がり込んでくるぐらいで、選手たちは伸び伸びと活動していました。部員数が多くなった現在でも、全く不足のないスペースです。さらにトラックの外側には砲丸投、円盤投も十分に行えるスペースが確保されています。狭いグラウンドでは、投てき種目はなかなか思うようにはできません。地の利を十二分に生かしたトレーニングが成果を生んでいるのでしょうか。

見学当日は、本練習に入る前に25分間のサーキットトレーニングが行なわれました。「体幹トレーニングを数多く取り入れたもので、ハードルを使った体幹トレーニングも数種類含まれていました。仲田先生は、「体幹トレーニング不要論を説く人もいますが、中学生の発達段階を考えると外すわけにはいきません」とおっしゃっていました。選手たちの発達段階をよく見極めたかたちで、必要不可欠な内容が必要かつ十分な強度で行なわれているように思われました。種目と種目の間はジョッグというよりは流しほどのスピードでつなぎ、最後は70mほど全力疾走で締めくくるものでした。この間選手たちはダレることもなく、最後まで同じペースで続けていました。実はこれが朝練のメニューであり、朝練は毎日行なっているとのことでした。これだけの内容を毎日続けていれば、自然と基礎体力が向上していくはずですが、そのあとで種目別の練習に移ったのですが、部員たちは休憩から器具の準備まで非常に滑らかな動きを示しました。休憩時間にはなごやかな雰囲気ではありながら、次の種目別練習を意識してか、落ちついた状態で過ごしていました。スターティングブロックやハードル、投てき用具の準備などは、先生方の指示が何もないと言っていい中で各自がてきぱきと動いており、ムダな時間は何一つありませんでした。冬場に近づいて練習時間が短くなってきたところですが、これなら密度の濃い練習が可能だと思わせる流れでした。これが二つめです。



お揃いのTシャツで

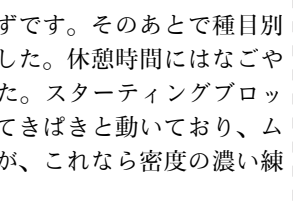
三つめには、おそろいのTシャツ姿を挙げておきます。訪問当日は、全員と言っていいほどの部員が背中に「大高」の文字が大書されたTシャツを着て練習をしておりました。取材の日用の特別な形ですかとお尋ねしてみると、仲田先生からは毎日のことですよとの答が返ってきました。以前に名古屋市内の強豪高校を訪ねた時にも同じことが見受けられ、顧問の先生から、「部としてまとまりますよ。気持ちが一つになりますから」と聞いた言葉を思い出しました。この高校のように意図的にそうしているかどうかを聞き漏らしてしまいました。結果として部のまとまりに寄与していることは間違いのないところでしょう。

3点と書きましたが、もう一つ、部員と顧問の先生の関係にも触れておきたいと思います。その日は学校行事のためのクラスでの活動や委員会活動で遅れてきた部員が何人かいました。遅れてきた人たちは全員が、遅れてきた理由を先生方にきっちりと報告しており、私には顧問と部員との適正な距離が保たれているなと思われました。それでいて、練習内容について質問する部員たちと先生方の関係はフレンドリーなものにも思われました。一つには、二人の先生のお人柄によるのでしょうか。ジュニア・オリンピックに出場する円盤投の選手に寄り添っていらした仲田先生のお姿や長距離部員の士気を高めるように声を掛けていらした浅井先生のお姿が記憶に残っています。顧問の先生方との良好な人間関係の中で、部員たちは力を付けているのだと思いました。

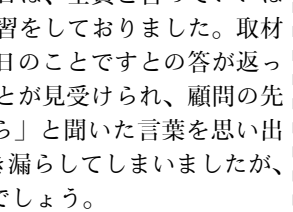
部員数が増えた中、下級生たちが切磋琢磨し合いながら、大高中学校はこれからもっと力をつけていくのではないかと、そんな思いを抱きながら私は校門を出ました。



体幹強化を中心としたサーキットトレーニング



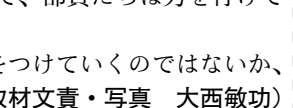
選手を見守る仲田先生



選手を見守る仲田先生



選手を見守る仲田先生



選手を見守る仲田先生

(取材文責・写真 大西敏功)

[第69回国民体育大会陸上競技大会(長崎) 10/19]

愛知中学校新記録

女子

4種競技 2711点 (15.22(0.4)-1.56-10.05-27.43(0.1))

加藤 紗佳子(美川)

[第68回愛知県中学校総合体育大会陸上競技大会(瑞穂) 7/30]

4×400mR 4.01.79 大高

(江頭亜美・鈴木朱音・山口真知・柴崎五月)

[第33回名古屋地区中学校新人陸上競技大会(オープン)(知多) 9/23]

(岡田 武彦)

女性委員会

トラックシーズンが終わりました。愛知の女子アスリート達は、大活躍のシーズンとなりました。特にリレー競技においては、全国小学生陸上競技交流大会・全日本中学校陸上競技選手権大会・全国高等学校対校陸上競技選手権大会と、どの大会にも入賞する素晴らしい成績でした。そして、何と言ってもアジア大会では、市川華菜さん(ミズノ)が日本代表チームのメンバーとして走った4×100mRで銅メダルと、4×400mRで銀メダル獲得と、これはテレビで見ていた私達も感動しました。アジア大会後間もない国民体育大会でも、市川さんを含む愛知女子4×100mRが優勝しました。これらの素晴らしい活躍は愛知の女子アスリート達に、多くの感動をもたらし、多くの刺激を与えたことと思います。これらの結果に続く活躍が今後とても楽しみです。

さて、駅伝シーズンが到来です。今年も女性委員会では、総務委員会と合同で「第33回都道府県対抗女子駅伝応援バスツアー」を企画しました。愛知陸協HPにも案内を掲載しています。今年も多くの皆様と京都で応援したいと思います。西京極陸上競技場内での様々なイベントやバスの中での楽しい企画も計画しておりますので、皆様のご参加をお待ちしております。(谷崎 好美)

区競技会、県選手権予選、地区選手権の3大会及び名古屋市陸上競技協会と開催する名古屋市民スポーツ祭では、参加者が3000名を超えています。そのため、100mが男子だけで100組を超えることもあり、本競技場と北競技場を使い競技会を行なっています。そのために、今までは競技会の終了時刻が19時を超える場合もあり、時間プロの作成に苦慮してきました。

そこで、抜本的な対策として1日目と2日目の種目を入れ替えることを行ないました。種目数の多い日を土曜日に、種目数の少ない日を日曜日にする事で2日目の終了時刻を17時台とすることができました。更に、北陸で100m、本陸で400mを同時時間帯に実施したり、フィールド競技ではトップ8を実施しない等で時間短縮を図ってきました。

しかし、地区選手権ではトラック短距離系・フィールド競技等で決勝・トップ8を実施してほしいという声が多く寄せられました。

そこで、今年度からは標準記録を設定し選手権と記録会に分離して実施することにしました。しかし、3000人以上出場する大会なので資格審査はとてできないため、申込の記録で振り分けて実施しました。初めての試みなのでプログラム作成段階から苦勞の連続でしたが、この運営が定着すれば競技会としてのレベルを維持しつつ、だれでも参加できる大会としての役割も担えると思います。

今後の課題として

- ①標準記録の設定は概ね良好でしたが、もう少し高くしても良かった種目もありました。
- ②北陸での記録の紹介が充分できていないので、その対策を考える必要があります。
- ③競技役員を増員する方法を考える必要があります。
- ④申込方法と申込者へのフィードバックの方法を工夫する必要があります。

(勝見 昌弘)

尾張陸上競技協会

平成26年度のトラックシーズンは11月1日の第3回記録会・中学新人戦をもって終了しました。

今年度は多くの好記録が誕生しました。中でも高校生は5名が山梨インターハイに出場し、400mHの真野選手(滝)が51秒64で3位、やり投の坂本選手(一宮南)が66m02で4位に入賞と輝かしい成績を収めました。第2回全国高校選抜大会には5名、日本ジュニア・ユース大会には6名が出場しました。また東海高校新人大会で男子は個人7名(延べ9種目)リレー1チーム(4×400m)、女子は7名(延べ8種目)が入賞し、来年度の全国大会につながる優秀な成績を収めました。一方全国定時制大会には3名が出場し、2名が上位入賞を果たしました。中学生では4名が全日中、2名がジュニアオリンピックに出場。小学生では1名が全国大会に出場しました。

尾張陸上競技選手権では優勝者にカップを授与。この大会は多くの新記録が誕生し、1年のしめくりりにふさわしい大会となりました。

長距離選手には、夏から鍛え上げた練習成果を今後の駅伝・ロードレース大会で十分発揮してもらいたいものです。本年度から、県営一宮総合運動場での休日練習利用時

各地区報告

名古屋地区陸上競技協会

競技会運営について



名古屋地区選手権大会にて

名古屋地区陸上競技協会では、年間8競技会+名古屋市陸上競技協会1大会の計9大会を主催・共催しています。

その中で中学から一般まで参加できる、第1回名古屋地

(特に投てき)の安全確保のため、協会から安全推進員を派遣し活動しました。結果として、1年間無事故で終了することができました。練習環境を整えたことにより、各競技会での成績面でも多くの成果が得られました。特に県高校新人戦での投てき種目においては、女子ハンマー投の入賞者6名のうち5名が尾張地区の選手であるなど、好成績を収めることとなりました。東海高校新人戦でも投てき陣は、男子が2名3種目、女子が4名5種目の入賞を果たしています。尾張の選手が上位を占めることができました。

1 尾張陸上競技選手権大会での大会新記録樹立者

	種目	氏名	所属	記録	備考
男子	110mH	水野 泰介	一宮高	15.23	
		森 泰生	AC一宮	15.36	
	4×100mR	野々村一輝 児島大樹 服部雅之 奥田裕也	中京大	42.81	
	やり投	藤垣 諒	至学館大	65.97	
女子	100m	鷺見 咲江	愛知教育大	12.27	
	200m	檜山 楓	至学館大	24.89	
	400m	檜山 楓	至学館大	56.19	
	やり投	近藤 香	津島北高	40.44	
	4×100mR	加藤 史紗 池山 知佳 山鈴村 奈々 近藤 彩加	杏和高	49.56	
		小林 薫子 松原 千夏 河井 菜穂 平野友紀子	一宮高	50.52	

☆大会優秀選手賞に男子は藤垣諒選手、女子は鷺見咲江選手が授賞。



2 第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会

- ①真野悠太郎 (滝) 400mH 51.75 3位
- ②坂本 達哉 (一宮南) やり投 66.02 4位

3 今後の予定

- ①尾張駅伝競走大会 27年1月18日(日)
- ②尾張陸上教室
26年12月13日(土)・27年1月10日(土)・2月7日(土)
- ③読売犬山ハーフマラソン 2月22日(日)
- ④審判伝達講習会・総会 3月22日(日)
(小島 末広)

西三河陸上競技協会

6月から検定工事に入っていた岡崎総合運動場も9月には全ての検査を終え、使用が可能となりました。土で四種

の競技場とはいえ、当地区出身者でオリンピックや世界選手権等世界を舞台に活躍している選手達は中学時代、この競技場の大会に参加し育ってきました。検定後、初の競技会として今シーズン最後の大会となる中学新人大会を開催しました。心配されていた台風の影響もなく天候に恵まれ、中学生達は先輩達に続けと言わんばかりに精一杯の競技を繰り広げ、今年度の競技会は幕を閉じました。

ここまでを振り返ってみて、今年度から全ての大会申込は提出用ファイルを使用し、メールで送付する方法に統一して実施してきました。小中の大会は今年度からの実施となり、申込みのミスもあったようです。そのミスも大会毎に減ってきているとのこと。再度、記入方法等周知徹底していく予定です。この方法を採用することにより、プログラム編成は従来と比べ時間と労力が軽減されてきました。しかし、受付窓口となる担当者の負担は大きくなりました。その負担軽減としての分担制等、至急検討し改善していきます。

さらに、今年度徹底して実施してきた事は、写真等の撮影許可証の発行です。スタート時は問題もありましたが、保護者や多くの関係者の方々の協力と理解も得られ、現在の方法で問題なく実施できるようになりました。その結果、撮影に関するトラブルはありませんでした。

選手達に目を向けると、例年どおりの活躍をしてくれました。アジア大会では、地区出身選手達が活躍しました。その選手達に続けと、新人選手が世界へ出て行きました。その一人として岡崎城西高校の卒業生で中京大学に在籍する鈴木康太君が、世界ジュニア陸上の棒高跳に出場しました。大会を終えての彼の感想は次のとおりです。

「7月24日にアメリカのユージーンで行なわれた世界ジュニア陸上競技選手権大会に出場してきました。結果は5m00で予選落ちでした。5m10を1回で跳んでいたら通過していたので惜しいことをしたと思いました。敗因は環境を考慮した跳躍ができなかったことだと思います。ユージーンでの気温は平均20度前半とやや涼しい環境でした。しかし、前日に雨が降り、当日は10度前半まで下がりました。そして、いつもは追い風の競技場だったのですが、雨の影響かその日に限って向い風でした。アップの時に身体がうまく動かないのを感じ、練習跳躍を普段の倍ぐらいやってようやく動くように感じました。4m85と5m00を1回でクリアして5m10が勝負どころだと感じ、ポールを変えて挑みました。その結果ポールがうまく進まず、浮きが出て幅のない跳躍になってしまい、失敗しました。自分と周りのコンディションを確実に見極めることが大切だと学びました。優勝記録は5m55と日本のジュニアと大きな差があるのを感じました。これから、オリンピックや世界選手権で戦える選手になれるよう精一杯やっていきます。応援有難うございました。」



今後が期待される鈴木康太選手

この言葉を彼のみでなく次に続く選手達も参考にし、活躍してくれることを願っています。

夏に行なわれた全国大会。高校総体では安城学園高校の中島恭佑君が走高跳で5位、同校の小林紗矢香さんが

100mHで2位に入賞しました。全日中では六ツ美北中学の山本里菜さんが100mで6位、同校は4×100mR(安井萌・深町優衣・沖田梨珠・山本里菜)でも6位に入賞しました。鶴城中学の小笠原早矢楓さんも走高跳で7位に入賞しました。全国小学生陸上では4×100mRで安城JACの男子(山並星南・谷口智紀・長田峻汰・松浦孝之)が3位、女子(安藤百萌・本田菜摘・稲垣瑠菜・大嶋紗弥)が2位に入賞しました。

残す行事は陸上競技教室、総会、審判講習会となりました。今シーズンも大会運営に関わった審判員、トレーナーの方々、そして、事務局を担当し競技会の準備・運営の中心を担った方々、その他関係自治体の方に感謝申し上げます。(櫻井 一美)

東三河陸上競技協会

東三河陸協が強化に取り組んでいることを少し述べます。

小学生の普及のために、東三河の5市全てがクラブを作って互いに切磋琢磨し、小学生の指導・普及に努めています。そして、中学校に陸上競技部のない生徒や、あっても指導者のいない生徒のために、中学生になってからも継続して指導ができるようにしています。

中学生と高校生の強化のために、中学は春と夏と冬の3回強化合宿を行ない、高校は春の強化合宿と夏と冬の合同練習会を行なっています。そして、強化合宿に著名な指導者を招いて、指導者講習会も行なっています。

指導者の親睦と力量向上のために、32年前から毎年7月に小中高指導者懇親会を行なっています。私も、個人的にはこの会で先輩の先生方から様々な体験談や指導法をお聞きし、それが今の指導者としての自分を形成してきたと思います。若い先生方には、積極的にこの会に参加してもらい、多くの先輩方との触れ合いを通して指導者としての力量を向上させてほしいものです。

次に、上半期の東三河勢の活躍について触れたいと思います。高等学校では、山梨県で7月30日～8月3日に行なわれた全国高等学校総合体育大会に、5校から個人12名とリレー1チームが出場を果たしました。そして、男子走幅跳で時習館の伊藤裕也君が8位に入賞し、女子では、1500mで豊川の鷺見梓沙さんが3位に入賞しました。

中学校では、香川県で8月18～20日に行なわれた全日中に、11校から個人11名とリレー1チームが出場を果たしました。そして、男子1500mで南稜の田中蒼大君が7位、4×100mRで高師台が8位に入賞しました。

小学校では、神奈川県で8月23日に行なわれた全国小学生陸上交流大会に、2クラブから3名が出場を果たしました。そして、女子6年100mで豊橋陸上クラブの新庄理子さんが3位に入賞しました。(兵藤 重二)

た。前日練習から種目ごとにコーチをつけて、大会当日もウォーミングアップから召集までコーチ帯同のスケジュールで選手をサポートしました。台風の影響で雨の中のレースになった選手もいましたが、それぞれが目的を持って集中してレースに挑んでいた姿は頼もしくもあり立派に見えました。

写真は、女子6年100mで3位に入った豊橋陸上クラブの新庄理子選手(中央)ですが、リレーでは安城JACが女子2位、男子3位に入り、そのレベルの高さを見せつけ、TSMの伊藤凜乃選手は女子80mHで5位、知立ジュニアの易永花音選手は、女子走高跳で7位入賞を果たしました。

今回は、8月初旬に選手とコーチが事前に集まったこともあって、大会集合時からスムーズに選手団が組めたと思っています。この全国大会や東海大会、県大

勢ぞろいした全国大会の参加者の素晴らしい舞台上で走れること、結果が良くも悪くも経験することが子どもたちの将来に必ずつながると確信しています。小学生で陸上を離れてしまうのではなく、中学につながる指導が大切だと再認識した大会でもありました。最後に、選手団の総監督として参加させていただき、コーチ陣の協力に感謝するとともに、少年少女陸上競技指導者表彰「安藤百福記念賞」受賞に気持ちを新たにしているところです。また、毎年開催していただけることに関係各位に感謝するとともに大会が末永く継続することを願っています。ありがとうございました。(手嶋 修次)



女子6年100mの新庄選手(中央)



勢ぞろいした全国大会の参加者

中小体連

トラックシーズンを終えて

多くの関係者のご協力とご支援をいただき、おかげさまで平成26年のトラックシーズンを大過なく終えることができました。紙面上ではありますが御礼申し上げます。

○全中出場者数、過去最多の75名出場

次の表は、学年別種目が廃止された平成5年以降の全中大会における愛知県選手の出場者の実数を示したものです。

なお、昨年は、86名の出場がありましたが、うち開催地枠としての出場者31名を含んだ数ですので、今年が過去最多の出場者数となりました。

特に、今年の中中は、7種目において標準記録の引き上げがなされ、厳しい結果を予想していただけに、この数字には大きな意味があると考えております。

また、75名の出場者数は兵庫120名、神奈川93名、静岡76名に次ぐ全国で4番目に多い人数です。

今回の成果の背景として、大きく3つの要因があると思います。1つは、選手の努力、日々指導されている先生方の熱意と指導力、選手のご家族の支えによる所が最も大きな要因であることは言うまでもありません。2つめは、今

関係団体報告

小学生友の会

トラックシーズンを終えて

—第30回全国小学生陸上競技交流大会—

8月22・23日に横浜・日産スタジアムで開催され、愛知県から選手22名、コーチ8名の選手団が参加しまし

表【全中・愛知県選手出場者実数】

年	実数	開催地
平成5年	46	兵庫県
平成6年	35	北海道
平成7年	35	山梨県
平成8年	38	静岡県
平成9年	25	高知県
平成10年	33	山形県
平成11年	26	富山県
平成12年	27	長崎県
平成13年	22	広島県
平成14年	41	京都府
平成15年	30	北海道
平成16年	43	群馬県
平成17年	51	岐阜県
平成18年	35	香川県
平成19年	53	宮城県
平成20年	58	新潟県
平成21年	69	大分県
平成22年	66	鳥取県
平成23年	49	奈良県
平成24年	47	千葉県
平成25年	86	愛知県
平成26年	75	香川県

年の3年生が1年生の時(平成24年)より愛知陸協選手強化委員会にジュニア部が発足し、谷口直土ジュニア部長(御幸山中)を中心に、多くの中学指導者や国体強化部の高校の先生方にご協力いただき、冬季における「ジュニア強化練習会」を開催していただいていることが挙げられます。なお、今年の中全において、女子砲丸投を除いたすべての種目で出場者を出すことができましたが、これも練習会の大きな成果だと考えています。3つめは、各地区での陸上クラブチームの活動が、小学生の年代に陸

上競技の楽しさを味わわせていただいていることです。

今後も選手の努力、指導者の指導力、陸上クラブチームとの連携、そしてジュニア強化練習会のそれぞれがうまくかみ合い、選手育成活動が推進できるよう、中体連としても努力をしていきたいと考えています。

○平成27年の全中大会(8/18～21・北海道)より、以下の3種目において標準記録の引き上げが検討されています。

男子 800m	2.01.50	→	2.01.00
女子 100m	12.55	→	12.53
女子 100mH	14.85	→	14.80

(丹羽 智行)

高体連

東海高体連当番県年度の平成26年度も残りわずか

愛知県高校駅伝も皆様のご協力のもと、男子は愛知が26年ぶりの栄冠を獲得しました。その中でも3区(山藤)選手の活躍は素晴らしいものでした。女子は豊川が優勝し都大路の全国大会への切符を手にし、2連覇へ向けて好スタートを切りました。昨年度はコース誤誘導等のミスがあり、本年度は万全の準備を済ませ、大会運営に臨みました。小さなミスはあったものの、なんとか無事に終了することができました。皆様のご協力に感謝いたします。この後、東海大会を実施し、東海の当番県を全うできればと思います。東海大会も本年度は男子の記念大会であり、壮絶な地区代表争いが展開されるものと思われます。県駅伝では2位の豊川工、3位の豊川ともに2時間10分を切っています。この2校を含めた愛知からの出場を期待して運営を行ないながら、応援をしていきたいと思ひます。あわせて運営にもご協力をお願いいたします。

本年度後半のT&Fは、長崎国体において少年男女の100mでの1位・2位獲得をはじめ、多くの選手が活躍し

ホープさん ㊟

高田 由基 選手(名古屋市立弥富小学校教諭) 愛知陸協 個人登録: 9366



2014年6月、サロマ湖100kmウルトラマソン
4位のフィニッシュ

2012年4月、名古屋市立弥富小学校に赴任しました。それ以来、日々の練習は片道13kmの通勤・帰宅ランです。週末の練習を加え、月間500～600kmを走っています。2013年6月のサロマ湖100kmウルトラマソンで、6時間49分53秒の自己ベストで愛知県記録を更新することができました。そして、今年(2014年)の同大会で4位となり、11月21日にカタールのドーハで開催される世界選手権に日本代表として出場します。

高校・大学と陸上競技部に所属し長距離に取り組んできましたが、目立った記録や実績は一切ありませんでした。100kmという自分に適性のある種目に出会えたことは、とてもラッキーでした。100kmを初めて走ったのは、2006年大学4年生の時。フルマソンに出ようと大会を探したものの、その時期にエントリーできる大会が無く、「どうせ走るなら」とサロマ湖100kmウルトラマソンにエントリー

しました。フルマソンよりも先に100kmに挑戦し、それ以来100kmを自分の専門種目として取り組んでいます。

競技としての100kmは、あまり知られていませんが、国際陸上競技連盟(IAAF)が公認する最長距離種目であり、世界選手権が毎年開催されています。この種目において日本は強豪国の一つで、これまでに個人・団体ともに金メダルを獲得しています。私はこれまで世界選手権に3回出場しており、個人では8位が最高順位です。4回目となる今回はそれを上回る結果を残したいと思います。

こうして競技を続け、世界選手権に出場できるのも、家族の支えと職場や保護者の方々の理解と応援があってこそです。応援してくださるたくさんの方々から感謝申し上げます。世界選手権に行くにあたり、担任をしている1年生の教室を数日空けることとなりますが、子どもたちは「高田先生、金メダルとってきてね!」と応援してくれています。その応援に結果で応えるとともに、努力すること、継続することの大切さを伝えていきたいと思ひます。

「レースを楽しむこと」「最後まで諦めないこと」「自分を信じることを胸に、「ドーハの歓喜」を実現したいと思います。応援よろしくお願ひします。



2011年9月世界選手権(オランダ)レースの様子

てくれました。高校総体では近年優勝から遠ざかっていた中で、至学館の柴山選手の国体での優勝は久しぶりの全国制覇でした。まだ2年生ですので、来年度の活躍を心から期待しています。

来年度の全国総体は和歌山県で行なわれます。本年度は125名という近年にない参加者を派遣することができました。何とかこの数の維持を目標に、陸協強化委員会とも協力をしながら目指していきたいと思えます。

専門委員長としてうまくまとめることができなかったところが多々ありましたが、東海高体連の当番県も皆様のご協力により何とか乗り切ることができそうです。1年間のご協力に心から感謝を申し上げます。今後とも高体連陸上部の活動に、ご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

大会結果等は競技会結果報告をご参照下さい。

(石井 哲郎)

高体連定通部

2014「トラックシーズンを終えて」



全国大会での愛知県選手団

毎年8月に開催される定通陸上全国大会は、国立競技場の改修により駒沢オリンピック公園陸上競技場で行なわれました。今年で49回目になる大会は、台風11号の襲来により大会最終日の実施が心配されました。しかし、強風と豪雨の荒天の中にもかかわらず本県代表選手は全力を出し切り、予想以上の素晴らしい成績を残すことができました。特に、女子走高跳の山口浩美さん(豊橋昼)は3年連続で優勝を飾り、100mHでも5位に入賞して、優秀選手賞を受賞いたしました。女子400mに優勝、200mで4位になった松屋空さん(科技刈谷)は1年生であり、来年以降の活躍が期待されます。また、女子400mでは1、2、6位に入賞し、女子総合優勝(11年ぶり15回目)、女子トラックの部の優勝の原動力になりました。男子も800mと走高跳で共に2位、3位に入賞し、リレーにおいても全種目入賞を果たし、男女総合で3位に入ることができました。

10月12日に開催された秋季大会も19号台風の影響が心配されましたが、風も穏やかな秋空の下で熱戦を繰り広げました。天候にも恵まれて好記録が出るなど、来年の全国大会での活躍が期待されます。



秋季大会 男子総合優勝 科技刈谷



秋季大会 女子総合優勝 豊橋昼
(牧野 明善)

実業団

2014年度の実業団としてのトラックシーズンは、岐阜県多治見市で開催された第10回の中部実業団選手権をもって終了しました。今後は、駅伝シーズンの到来です。

トラックシーズンの第1戦としては、5月の第58回中部実業団対抗陸上選手権が開催され、小島プレスが2年連続の総合優勝を飾りました。男子は、トヨタ自動車、女子では、小島プレスが優勝しました。



総合優勝の小島プレス

山口県で開催された第2戦の全日本実業団では、女子200mで市川華菜選手(ミズノ)が24秒11で実業団初優勝を飾りました。男子では、ジュニア5000mで林辰也選手(トヨタ自動車)が14分05秒61のタイムで優勝を飾りました。

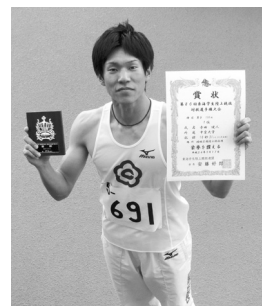
9月28日に開催された第3戦の中部実業団選手権では、男子5000mで13分台のタイムを出す選手が多数あり、駅伝シーズンが楽しみとなりました。(中村 博之)

学連

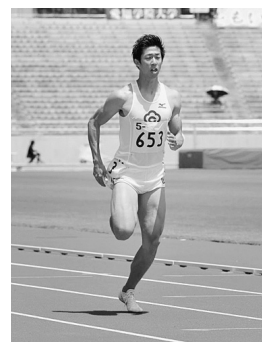
東海学生陸上競技連盟からの報告
「トラックシーズンを終えて」

10月11・12日の東海学生秋季大会(長良川競技場)をもって東海学連主催のトラックシーズンにおける試合が終了した。後半シーズンのピークは9月に熊谷で行われた第83回日本学生対校選手権大会(日本インカレ)であったが、男子は短距離を中心に東海学連の選手、特に愛知県出身の選手が活躍した。

まずは春先から好調の寺田健人選手(中京大3年・栄徳高出身)が100mで山縣選手(慶応義大)について2位、さらには夏から急激に調子を上げてきた田村朋也選手(中京大4年・名古屋大谷高出身)が400mで同じく2位に入賞した。また、男子走幅跳では今シーズン急激に頭角を現してきた松原瑞貴選手(岐阜経済大・名城大附属高出身)が3位、男子ハンマー投では墨訓照選手(中京大3年・起工業高出身)が2位に入賞する



寺田健人選手



田村朋也選手

活躍を見せた。男子のリレーでは中京大が4×100mR、4×400mRの2種目で東海学生新記録(39秒26、3分05秒57)を樹立し、それぞれ3位、4位に入賞したが、両リレー共に4人のリレーメンバーの内3人が愛知県出身者(寺田、田村、丹羽勇揮・春日井南高出身、屋貝博文・中京大中京高出身、中川滋樹・豊川高出身)であった。

田村朋也選手はこのインカレでの活躍が評価され、日本インカレ直後にモロッコのマラケシュで開催された第2回コンチネンタルカップ(大陸別対抗戦)のマイルリレーメンバーに選ばれ、アジアチームの代表として出場した。

女子では中京大1年生の丹羽愛利彩選手(愛工大名電高出身)が初めてのインカレ出場とは思えないような落ち着いた試合運びで100m、200m共に3位入賞という大活躍を見せた。

また、樫山 楓選手(至学館大・津島高出身)も400mで2位、800mの竹内麻里子選手(中京大3年・中京大中京高出身)も3位入賞とここでも愛知県出身選手が活躍した。

トラックシーズンが終わるとロード・駅伝シーズンとなるが、トラックシーズンがまだ終了しない10月13日に行なわれた出雲駅伝(中京大学が出場)は台風の影響で大会史上初の中止となった。また、10月26日に仙台で行なわれた全日本大学女子駅伝では名城大学が7位入賞し、来年度のシード権を獲得した。東海地区からの代表となった中京大は18位と健闘したが、17位以上であれば来年度の東海学連の出場枠(現行1枠)が1つ増えただけに残念な結果であった。全日本大学駅伝は11月2日に開催され、東海学生駅伝は12月7日に開催される予定である。

来年是北京世界選手権と共にユニバーシアードも開催されるため、東海学連の選手の活躍に期待したい。

(本田 陽)

愛知陸協 OB・OG 会

秋の日帰り旅行

日頃はOB・OG会に格別のご支援・ご協力をいただきありがとうございます。

例年の秋の行事を10月23日(木)みかわ温泉“海遊亭”へ29名のご参加をいただき、楽しい一日を過ごしてまいりました。

午前10時に蒲郡駅へ集合し、会場の車で約30分かけて行き、11時から涙と笑いのなつかしい大衆演劇を観賞し、別室で昼食をかねて宴会を催し、参加者一同心を開き大いに飲み、お互いの親睦を深めることができました。その後、入浴したり、歌謡ショーを楽しんだりして、それぞれ帰路につきました。

また、1月には一泊で新年親睦会を予定しています。

年末を迎えますが、健康には十分ご留意されお元気に新年をお迎えください。

(村瀬雄一郎)

マスターズ陸上

心豊かな長寿社会への貢献役

2014年度の愛知マスターズ連盟が主催する大会は、8月9日の第55回記録会で全て終了しました。4月12日の第52回記録会には、実人員324人が参加し、W35の60mで酒井あおいが日本新記録を出しました。

6月21日の第53回記録会には、実人員391人が参加し

ました。

7月5日の第54回記録会には、実人員376人が参加しました。この記録会では不手際により、組み違いの記録を発表し、当該種目の選手の皆様には大変なご迷惑をお掛けしました。54回目にして初めて大きな失態と深く反省しています。

第55回記録会は、8月9日に開催しました。実人員392人が参加しました。この日は朝からの生憎の雨にもかかわらず、金子葉子がW50の60mで日本タイ記録、100mでは日本新記録を出しました。

9月19日から23日まで岩手県北上市の北上市陸上競技場において、第18回アジアマスターズ選手権大会兼第35回全日本マスターズ選手権大会が開かれました。これには国内から1,944人、海外から935人あわせて2,879人が参加し、愛知からは106人の会員が参加しました。これは地元岩手の188人、神奈川116人、東京107人に次ぐ4番目に多い参加数でした。

愛知の特徴は、地元岩手の39人に次いで、2番目の20人と女性の参加者が多く、特にW45～W55に15人が参加していることです。これは女子短距離陣がリレーメンバーを中心に熱心に競技に取り組んでいる本人の熱意とともに、家族の理解と協力があり、遠方の大会にも参加できる環境に恵まれた会員が多いからではないかと思えます。

競技面においては、16人が25種目でチャンピオンとなりました。中でも中山淳子は、W55で800m、1500m、5000mの3種目をすべて大会新記録で優勝しています。これで彼女はW50から負け知らずのチャンピオンを維持しています。

日本代表のリレーチームのメンバーとして、男子では小高孝二がM45の4×400mRで第2走者として走りアジア・日本新記録で優勝、女子4×100mRにおいてW50の金子葉子、W45の宮本百合がそれぞれ第2走者、第3走者で走り、アジア新・日本新記録で優勝、碓井由紀子がW50の4×400mRでアジア新・日本新記録で優勝しています。

初日は一部雨に降られましたが、2日目以降はやや風があったものの、いいコンディションで競技は進みました。しかし、本競技場には照明設備がないため一部の競技においては、照明設備のあるサブ競技場へ移動し、本競技場では写真判定用照明のみの中で競技が行なわれ、選手にとっては危険を感じながら競技をすることになりました。

10月5日に長野市陸上競技場で第13回東海マスターズ選手権大会が開催されました。

愛知から62人が参加し、肌寒い小雨の中で競技が行なわれました。ここでも女子の参加者が地元長野の16人に次ぐ15人と2番目に多くなっています。

競技面では、男子の小高孝二がM45の60m、100m、200mの3種目で優勝しました。なお、200mでは大会記録を塗り替えています。関口 孝がM30の60m、100m、女子では宮本百合がW45の100m、200m、金子葉子がW50の60m、100m、長尾典子がW55の200m、400m、佐藤昭子がW45の砲丸投、円盤投の2種目で優勝しています。

台風18号の接近による雨の中、コンディションに恵まれず記録が出にくい状況の下で、参加した選手全員がよく頑張って競技を終えました。

(佐野 昭二)

競技会報告

第74回愛知陸上競技選手権大会
兼第57回東海陸上競技選手権大会予選会
兼第69回国民体育大会選手選考競技会

2014年7月19日(土)・20日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR: 大会新記録)

種目	1位	2位	3位
100m	寺田 健人 10.40GR 中京大	長田 拓也 10.53 法政大	西垣 佳哉 10.65 法政大
200m	丹羽 勇揮 21.24 中京大	掛川 真 21.47 関西学院大	屋貝 博文 21.48 中京大
400m	田村 朋也 47.28 中京大	安間 健登 47.46 愛知学院大	壁谷 智之 47.50 慶應大
800m	鷺見 建亮 1.55.14 日本大	矢澤 舜一 1.55.83 愛知大	渡邊 隆介 1.57.12 名城大
1500m	中川 智春 3.56.55 トーエネック	多和田涼介 3.58.44 愛知高	渥美祐次郎 3.58.52 東京大
110mH (1.067m)	吉村 健吾 14.10 愛知陸協	角田 涼一 14.25 中京大	吉岡 康典 14.36 中京大クラブ
400mH (0.914m)	岡田 壮平 51.39 法政大	山本 躍斗 51.51 城西 AC	三浦 央頌 52.69 愛知学院大
3000mSC (0.914m)	清水 勇 9.05.75 トーエネック	三上 嵩斗 9.09.28 岡崎城西高	河野 宏樹 9.19.43 TTランナーズ
5000mW	木村 洋介 20.30.47 順天大	及川 文隆 20.36.94 東洋大	皿井 泰光 20.58.77 横浜国大
走高跳	水谷 来 2.14 岡崎城西高	舟瀬 勇太 2.11 名古屋デジタル	2.05 加藤 紀一 名古屋工業大 市川 靖真 中京大 糟谷 隆明 愛知教育大
棒高跳	石川 拓磨 4.90 岡崎城西高	野口 力矢 4.80 CHUKYOSPIRITS	4.60 野村 大成 中京大 小木曾 光 中京大中京高
走幅跳	木村 友紀 7.85 愛知陸協	松原瑞貴 7.69 岐阜経済大	二宮 聡史 7.53 都留文科大
三段跳	木村 友紀 15.47 愛知陸協	金田 純弥 15.29 TEAMKAKERU	鈴木 雄貴 14.97 中京大
砲丸投 (7.260kg)	山元 隼 16.82GR 中京大クラブ	白石 健太 13.96 東海大	江崎 亮人 13.65 日本大
円盤投 (2.000kg)	小野 真弘 47.56 愛知茗友クラブ	久保 博規 45.24 中京大クラブ	小出 拓実 42.89 愛知大
ハンマー投 (7.260kg)	久保 浩司 62.04 中京大クラブ	一柳 英之 58.08 中京大	北浦 弘之 51.52 中京大クラブ
やり投 (0.800kg)	大島 知之 64.69 筑波大	坂本 達哉 62.66 一宮南高	下り藤修大 62.42 小島プレス

最優秀選手 寺田 健人 (中京大)

女子 (GR: 大会新記録)

種目	1位	2位	3位
100m	丹羽愛利彩 11.90 中京大	中野 真琴 11.96 安城学園高	柴山沙也香 12.08 至学館高
200m	丹羽愛利彩 24.45 中京大	梶浦みずき 24.58 愛知高	中野 真琴 24.68 安城学園高
400m	檜山 楓 55.34GR 至学館大	吉川 侑希 56.36 愛知教育大	梶浦みずき 56.60 愛知高

800m	竹内麻里子 2.08.11 中京大	吉川 侑希 2.09.23 愛知教育大	向井 智香 2.10.66 至学館高
1500m	竹内麻里子 4.27.59 中京大	中根 千明 4.29.75 中京大中京高	川野 桃子 4.30.38 安城学園高
100mH (0.840m)	岸 沙耶香 13.75 小島プレス	小林紗矢香 13.87 安城学園高	萩原加奈子 14.12 青山学院大
400mH (0.762m)	北野 有紀 1.00.32 愛知教育大	岩田帆乃夏 1.01.04 中京大中京高	長屋 美月 1.01.39 中京大中京高
3000mSC (0.762m)	安藤 実来 10.54.76 愛知教育大	長井真由美 11.10.82 小島プレス	水谷 百花 11.18.61 中京大中京高
5000mW	前川 知美 23.08.21GR 三菱自動車岡崎	杉本 梨保 23.28.45GR 至学館高	前田 紗希 24.22.89 名古屋大
走高跳	杉浦 澄美 1.71 筑波大	笹島 藍 1.68 愛知アスリート	中西 美早 1.68 岡崎城西高
棒高跳	今泉 友里 3.50 岡崎城西高	本多 美月 3.40 中京大	所 杏子 3.40 中京大中京高
走幅跳	石原 薫子 5.91 中京大	大賀 理加 5.77 トヨタ自動車	浅井 真子 5.62 中京大
三段跳	中山 怜佳 12.01 至学館大	石原 薫子 11.64 中京大	久世由香里 11.46 中京大クラブ
砲丸投 (4.000kg)	佐藤 眞子 11.83 大府高	丸山 夏美 11.67 至学館大	中村 彩花 11.42 豊橋東高
円盤投 (1.000kg)	徳岡 沙織 41.23 中京大クラブ	近藤 瞳 40.82 至学館大	中内 真悠 37.38 安城学園高
ハンマー投 (4.000kg)	大久保祥子 51.74 長久手高	近田 茜 51.02 国際武道大	辻木ゆかり 47.84 中京大
やり投 (0.600kg)	森 凧紗 45.22 名城大附属高	長屋 楓 45.16 至学館高	高塚 裕子 43.50 中京大

最優秀選手 前川 知美 (三菱自動車岡崎)

第60回全日本中学校通信陸上競技愛知県大会
兼第41回全日本中学校陸上競技選手権大会愛知県予選会
兼第69回国民体育大会選手選考競技会 (少年B・共通)
2014年7月21日(月・祝) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR: 大会新記録 ◎: 標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	小倉 一心 12.49 豊橋南陽	遠藤 耕介 12.53 碧南新川	大崎 雅人 12.60 尾張旭東
1年 1500m	馬場勇一郎 4.21.84GR 上郷	前田 陸 4.28.53 逢妻	彦坂 泰地 4.30.66 田原東部
2年 100m	戸田 健太 11.96 安城北	早川 遼 12.05 章南	藏田 源貴 12.09 愛教大名古屋
3年 100m	平野 皓陽 11.44 東海	伊藤 僚英 11.48 滝	筒井 幹太 11.52 高師台
200m	光松 修平 高橋 舞羽	田原 羽田 23.08	筒井 幹太 23.23 高師台
400m	西田 侑史 52.06 大府	牧野 佑紀 52.09 富士	杉野 蒼太 52.45 守山
800m	宇野 佑亮 2.02.10 常磐	近藤 寛人 2.02.24 知立南	中倉 啓敦 2.02.99 神の倉
1500m	田中 蒼大 4.06.08 ◎GR 豊橋南稜	山本 起弘 4.07.27 ◎豊川東部	藤田 研太 4.07.58 ◎美川
3000m	河合 陽平 8.59.49 田原東部	森 俊輔 8.59.69 六ツ美	柳瀬 柊斗 9.06.92 豊橋南稜
110mH (0.914m)	金井 駿賢 15.16 石巻	山本 聖真 15.24 東海	柵木 友幸 15.39 鶴城
4×100mR	東海 44.46 山本 聖真 平野 皓陽 竹内 廉 前田 知輝	御幸山 44.63 小澤 斗真 小笠原海貴 青山 宏貴 服部 奨	名塚 44.64 佐藤 悠斗 村井 健将 浅野 誉士 片岡 瑠至

走高跳	落合 惇寛 1.85 ◎御幸山	杉田 光 1.85 ◎刈谷南	前田 章吾 1.79 北山
棒高跳	石崎龍之介 3.90 鶴城	山口 遼也 3.90 豊川東部	加藤 綾太 3.70 石巻
走幅跳	大塚 隆真 6.58 ◎豊橋東部	小柳津瑛斗 6.54 ◎代田	藏田 源貴 6.51 ◎愛教大名古屋
砲丸投 (5.000kg)	猪上 凌太 13.19 ◎高蔵寺	遠藤麻緒斗 13.12 ◎高蔵寺	中村 達郎 12.96 美川

女子 (◎：標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	中山 愛理 13.19 東浦北部	大城 珠莉 13.29 弥富	三輪 未来 13.42 神の倉
2年 100m	生田奈緒子 12.96 本郷	都築 美音 12.97 東浦	駒木 遥 13.37 富士
3年 100m	山本 里菜 12.66 六ツ美北	長谷川愛樹 12.88 守山北	磯部 まみ 13.13 師崎
200m	鈴木 朱音 25.45 ◎大高	長谷川愛樹 25.53 ◎守山北	都築 美音 25.60 ◎東浦
800m	細井 衿菜 2.17.33 矢作	宇野 佑紀 2.17.58 常磐	酒井 美有 2.19.34 栄
1500m	松井 優実 4.33.50 ◎高豊	藤中 佑美 4.39.14 猿投台	酒井 美有 4.39.26 栄
100mH (0.762m)	古橋 佳奈 14.70 ◎桜田	江頭 亜美 15.08 大高	川崎 瞳 15.29 長良
4×100mR	大高 49.81 山口 真知 柴崎 五月 江頭 亜美 鈴木 朱音	六ツ美北 49.93 安井 萌 深町 優衣 沖田 梨珠 山本 里菜	藤森 50.99 山下阿佐子 柴田 愛美 中込 有紀 谷口なつ実
走高跳	水野 花菜 1.63 ◎春日井中部	宮田 歩美 1.63 ◎豊国	小笠原早矢楓 1.60 ◎鶴城
走幅跳	吉見はるか 5.41 ◎鶴城	宮川 杏奈 5.36 みよし南	富塚日南々 5.34 常滑
砲丸投 (2.721kg)	鬼頭奈帆 11.76 平針	丹嵐あやめ 11.62 北陵	名倉 千遥 11.55 大府西

第68回愛知県中学校総合体育大会陸上競技大会
2014年7月29日～30日 瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR：大会新記録 ◎：標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	小倉 一心 12.11 豊橋南陽	武藤 豪志 12.13 犬山東部	大崎 雅人 12.15 旭東
1年 1500m	馬場勇一郎 4.20.13GR 上郷	前田 陸 4.21.96GR 逢妻	服部 凱杏 4.22.54GR 千種
2年 100m	戸田 健太 11.59 安城北	伊藤 彰海 11.71 阿久比	服部 匡恭 11.75 富士
2年 1500m	大上 颯麻 4.12.93 猿投台	中倉 啓敦 4.14.53 神の倉	鳥居 風樹 4.14.84 末野原
3年 100m	平野 皓陽 11.19 ◎東海	筒井 幹太 11.29 高師台	梅谷 将成 11.30 大口
3年 1500m	田中 蒼大 4.06.73 ◎南稜	山本 起弘 4.06.82 ◎豊川東部	近藤 寛人 4.06.93 ◎知立南
200m	青木健太郎 22.62 ◎一柳	光松 修平 22.88 田原	豊田 凌士 23.07 豊橋南陽
400m	前橋 竣耶 50.61GR ◎田原	鳥山 由真 50.61GR ◎高師台	高橋 舞羽 51.28 ◎羽田
800m	植田 雅弘 2.01.77 高橋	川崎 銀士 2.03.57 犬山城東	高橋 登也 2.04.07 田原東部
3000m	長谷部 航 8.56.17GR ◎矢作	野川 寛太 8.56.64GR ◎みよし北	森 俊輔 8.56.85GR ◎六ツ美

110mH (0.914m)	山本 聖真 14.80 ◎東海	金井 駿賢 14.89 ◎石巻	河合 辰貴 15.09 六ツ美
低学年 4×100mR	古知野 47.61 大脇 将吾 中根 徳彦 関谷 侑紀 山口 和輝	滝 47.63 吉田 潤平 千賀 誠矢 大岩 聖汰 堀江 一平	長良 47.98 前田 宇航 神谷 翔矢 戸谷 荘宏 南川竜太郎
4×100mR	高師台 44.25 中谷 将麻 鳥山 由真 中谷 竜麻 筒井 幹太	石巻 45.02 山本 麗於 高橋 知義 金井 駿賢 戸井 和歩	天神山 45.10 藤林 稜 宮崎 修輔 平本 健悟 岡田 竜弥
走高跳	落合 惇寛 1.88 ◎御幸山	大海 慶 1.85 ◎岡崎東海	杉田 光 1.85 ◎刈谷南
棒高跳	石崎 龍之介 4.00 ◎鶴城	山口 遼也 3.90 豊川東部	加藤 綾太 3.80 石巻
走幅跳	太田 光紀 6.53 ◎安城南	大塚 隆真 6.40 豊橋東部	横田 幹太 6.26 逢妻
砲丸投 (5.000kg)	猪上 凌太 13.32 高蔵寺	遠藤麻緒斗 12.70 高蔵寺	中村 達郎 12.65 美川
四種競技 (オープン)	鶴見 俊介 2121 富士	中村 陸斗 2022 阿久比	村上フェリペ 1941 豊岡

女子(PR：県新記録 GR：大会新記録 ◎：標準記録突破)

種目	1位	2位	3位
1年 100m	中山 愛理 13.10 東浦北部	大城 珠莉 13.27 弥富	三輪 未来 13.34 神の倉
1年 800m	松原 亜純 2.23.17 清須新川	稲葉 朱音 2.25.22 竜海	稲葉 朱里 2.26.21 竜海
2年 100m	都築 美音 12.74 東浦	天神 綾音 13.13 旭西	榊原 萌 13.19 末野原
3年 100m	山本 里菜 12.43 ◎六ツ美北	長谷川愛樹 12.52 ◎守山北	磯部 まみ 12.77 師崎
200m	鈴木 朱音 25.45GR ◎大高	生田奈緒子 25.76 ◎本郷	佐藤 琴美 26.04 崇化館
800m	宇野 佑紀 2.15.08 ◎常磐	猪塚 真希 2.15.24 ◎東浦北部	加藤 もも 2.17.93 諸輪
1500m	松井 優実 4.34.16 ◎高豊	藤中 佑美 4.37.64 ◎猿投台	酒井 美有 4.37.70 ◎栄
100mH (0.762m/8m)	古橋 佳奈 14.76 ◎桜田	川崎 瞳 14.84 ◎長良	江頭 亜美 15.04 大高
低学年 4×100mR	旭西 52.07 秋尾 佳恵 松本 祐奈 福田メイラニ愛純 天神 綾音	甲山 52.18 山口 実桜 永井絵理香 田中 海来 小緑 由衣	御幸山 52.56 宇田 和香 渡辺明日香 島田 沙貴 黒田 花
4×100mR	六ツ美北 49.47 安井 萌 深町 優衣 沖田 梨珠 山本 里菜	大高 49.66 山口 真知 柴崎 五月 江頭 亜美 鈴木 朱音	藤森 50.60 山下阿佐子 柴田 愛美 中込 有紀 谷口なつ実
走高跳	塩澤 日菜子 1.60 ◎大府	水野 花菜 1.60 ◎春日井中部	宮田 歩美 1.60 ◎豊国
走幅跳	河井かのこ 5.49 ◎古知野	林 里菜 5.41 ◎長良	吉村 月乃 5.33 東浦
砲丸投 (2.721kg)	丹嵐あやめ 12.07 北陵	近藤 沙南 11.99 竜海	名倉 千遥 11.65 大府西
四種競技 (オープン)	加藤紗佳子 2711 PR GR 美川	明上 桐子 2421 牧の池	秋尾 佳恵 2379 旭西

学校対抗総合順位

	1位	2位	3位
男子	高師台	石巻	逢妻
女子	大高	竜海	東浦

**平成26年度全国高等学校総合体育大会
秩父宮賜杯第67回全国高等学校陸上競技対校選手権大会
2014年7月30日(水)～8月3日(日) 山梨中銀スタジアム**

男子

種目	順位	記録	選手名	学校名
100m	3	10.71	近藤 晃	愛工大名電
400mH	3	51.75	真野悠太郎	滝
走高跳	5	2.07	中島 恭介	安城学園
走幅跳	8	7.19	伊藤 裕也	時習館
やり投	4	66.02	坂本 達哉	一宮南

女子

種目	順位	記録	選手名	学校名
200m	7	24.75	梶浦みずき	愛知
			柴山沙也香	至学館
800m	3	2.09.80	向井 智香	至学館
1500m	3	4.23.93	鷺見 梓	豊川
100mH	2	13.83	小林紗矢香	安城学園
4×100mR	5	46.44	浜田 奈子	愛知
			梶浦みずき	
			伊藤 里帆	
			吉田 紗弓	
4×400mR	4	3.44.73	一ノ瀬安葉	愛知
			伊藤 里帆	
			吉田 紗弓	
			梶浦みずき	
5000m 競歩	5	23.55.86	杉本 梨保	至学館
走高跳	4	1.75	松井 紗希	中京大中京
ハンマー投	5	46.87	森 凧紗	名城大付
七種競技	7	4824	高野 莉万	明和

**第49回全国高等学校定時制通信制陸上競技大会
2014年8月8日(金)～10日(日) 駒沢オリンピック公園陸上競技場**

男子

種目	順位	氏名	学校名	記録
800m	2	松岡 椋太	科技刈谷	2.07.88
	3	伴 紘輝	科技刈谷	2.07.94
400mH	5	川添 達也	科技刈谷	1.02.66
3000mSC	7	坂元裕二郎	科技刈谷	11.26.81
4×100mR	6	杉下、斎藤、田中、赤嶺(選抜)		45.90
4×400mR	3	川添、伴、関、日高(選抜)		3.40.19
走高跳	2	濱崎 優祐	科技刈谷	1.78
	3	清水 拓海	豊橋・昼	1.78
走幅跳	7	田中 大樹	豊橋・昼	5.98
円盤投	4	加藤 宏明	岡崎工	30.33

女子

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	5	春田玲穂奈	一宮	14.14

200m	4	松屋 空	科技刈谷	29.20
400m	1	松屋 空	科技刈谷	1.06.90
	2	山下 真菜	科技刈谷	1.08.16
	6	伊東 愛莉	科技刈谷	1.10.63
100mH	5	山口 浩美	豊橋・昼	19.89
	7	春田玲穂奈	一宮	20.33
4×100mR	2	古田、日高、松屋、春田(選抜)		55.83
棒高跳	1	山口 浩美	豊橋・昼	1.55
砲丸投	6	永津珠絵吏	明和	8.81
円盤投	4	稲葉 恭子	明和	25.76

男女総合：3位 106点

男子総合：3位 48点

男子トラックの部：5位 28点

男子フィールドの部：4位 20点

女子総合：優勝 58点 (11年ぶり15回目の優勝)

女子トラックの部：優勝 41点

女子フィールドの部：3位 17点

☆山口浩美(豊橋・昼)女子優秀選手賞に輝く(女子走高跳3年連続優勝)

**第36回東海中学校総合体育大会陸上競技大会
2014年8月9日 岐阜メモリアルセンター長良川競技場**

男子

種目	順位	記録	選手名	学校名
1年100m	2	12.17	大崎 雅人	旭東
3年100m	2	11.31	平野 皓陽	東海
200m	3	22.89	青木健史郎	一柳
400m	2	50.70	鳥山 由真	高師台
	3	50.96	高橋 舞羽	羽田
800m	3	2.01.47	植田 雅弘	高橋
1年1500m	1	4.23.36	前田 陸	逢妻
3年1500m	3	4.15.90	近藤 寛人	知立南
3000m	2	8.52.92	蝦夷森章太	古知野
110mH	1	14.79	山本 聖真	東海
	2	14.80	金井 駿賢	石巻
4×100mR	1	44.34	中谷 将麻	高師台
			鳥山 由真	
			中谷 竜麻	
			筒井 幹太	
走高跳	2	1.80	落合 惇寛	御幸山
	3	1.80	木下 聖斗	大治
走幅跳	1	6.43	藏田 源貴	愛教大附

女子

種目	順位	記録	選手名	学校名
1年100m	1	12.89	中山 愛理	東浦北部
	3	13.36	大城 珠莉	弥富
2年100m	2	12.65	都築 美音	東浦
3年100m	1	12.34	長谷川愛樹	守山北
	2	12.35	山本 里菜	六ツ美北

200m	1	25.47	鈴木 朱音	大高
	3	25.75	生田奈緒子	本郷
1年 800m	2	2.22.97	稲葉 朱音	竜海
800m	1	2.15.48	宇野 佑	常磐
	2	2.17.34	猪塚 真希	東浦北部
1500m	1	4.37.07	松井 優実	高豊
	3	4.38.67	酒井 美有	栄
100mH	2	14.61	古橋 佳奈	桜田
	3	14.85	江頭 亜美	大高
低学年 4×100mR	3	52.30	山口 実桜	甲山
			永井絵理香	
			田中 海来	
			小緑 由衣	
4×100mR	2	49.85	山口 真知	大高
			柴崎 五月	
			江頭 亜美	
			鈴木 朱音	
	3	49.99	安井 萌	六ツ美北
			深町 優衣	
			沖田 梨珠	
			山本 里菜	
走高跳	1	1.58	小笠原早矢楓	鶴城
	3	1.55	水野 花菜	春日井中部
走幅跳	3	5.43	吉村 月乃	東浦

第35回愛知県ジュニアオリンピック競技大会
第45回ジュニアオリンピック陸上競技大会愛知選手選考会
2014年9月15日(月・祝) 瑞穂公園北陸上競技場

(クラス：A…中学3年 B…中学2年 C…中学1年)

	種目	1位	2位	3位
男子A	100m	平野 皓陽 11.38 東海	為 悟 11.39 平坂	11.49 筒井 幹太 高師台 伊藤 僚英 滝
	200m	前橋 竣耶 22.49 田原	鳥山 由真 22.67 高師台	高橋 舞羽 22.79 羽田
	3000m	蝦夷森章太 8.51.55 古知野	山本 起弘 8.55.00 豊川東部	野川 寛太 8.55.42 みよし北
	110mH (0.991m)	山本 聖真 15.35 東海	金井 駿賢 15.52 石巻	河合 辰貴 15.87 六ツ美
	走高跳	杉田 光 1.91 刈谷南	落合 惇寛 1.88 御幸山	1.80 前田 章吾 北山 木下 聖斗 大治
	砲丸投 (5.000kg)	猪上 凌太 13.60 高蔵寺	中村 達郎 12.99 美川	遠藤麻緒斗 12.96 高蔵寺
男子B	100m	戸田 健太 11.49 安城北	伊藤 彰海 11.78 阿久比	藏田 源貴 11.83 愛教大附属名古屋
	1500m	大上 颯麻 4.07.81 猿投台	中倉 啓敦 4.08.99 神の倉	山盛 翔大 4.09.29 名南
	110mH (0.914m)	吉田 潤平 15.72 滝	友永 尚希 16.30 萩山	麻生 健太 16.47 TSM
	走幅跳	河合 優作 6.21 岡崎城北	中村 伊吹 6.12 豊明	尾河 亮太 6.11 萩山

陸上競技場めぐり⑧

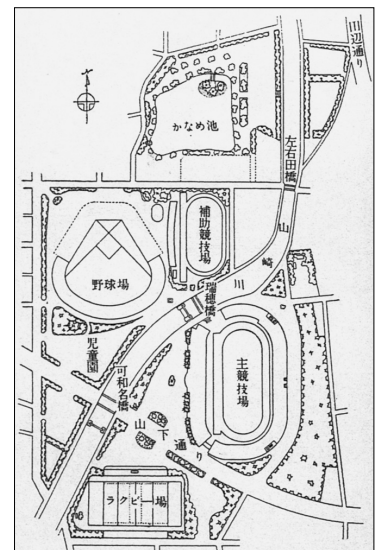
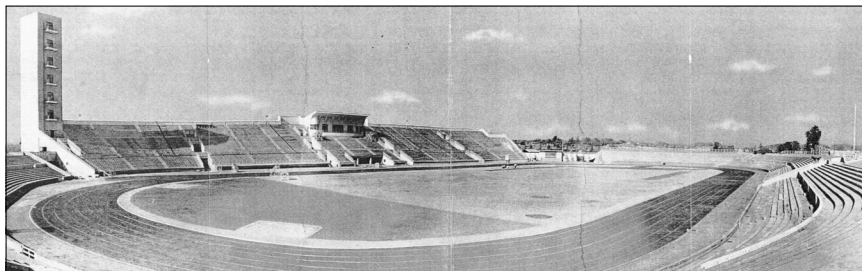
瑞穂公園陸上競技場 (その2)

「瑞穂公園陸上競技場」資料写真で見る歴史②

今回は、1955年発行の瑞穂運動場の貴重なパンフレットから紹介します。主競技場と補助競技場の位置関係や当時の使用料がわかります。現在の北陸は池だったと新しい発見があります。

1994年わかしゃち国体の時は、諸般の事情で補助競技場は、本陸の近くでできず現在の場所になり、関係者は大変苦勞されました。

1986年 幻の名古屋オリンピックのサッカー場予定



1987年 瑞穂陸上競技場全面改修により全天候舗装になる

1988年 全国高校総体開催

1993年 Jリーグ発足に伴い名古屋グランパスのホームグラウンドとなる。メインスタンドに屋根が取り付けられる。

1994年 瑞穂陸上競技場全面改修

1994年 第49回国民体育大会開催(わかしゃち国体)

男子B	砲丸投 (4.000kg)	河相光太郎 11.92 高蔵寺	鈴木健太郎 11.69 大高	石田 草太 11.29 古知野
男子C	100m	大崎 雅人 12.11 TSM	小倉 一心 12.15 豊橋南陽	久野 明 12.41 上郷
	1500m	前田 陸 4.20.97 逢妻	彦坂 泰地 4.21.75 田原東部	永井 翔真 4.21.76 矢作北
	110mH (0.840m)	加藤瑠乃祐 14.70 TSM	岩堀 剛己 14.96 新香山	土屋 翔栄 15.35 六ツ美
	走幅跳	神谷 翔矢 5.54 長良	石田 拓真 5.50 守山東	大森 浩史 5.23 守山東
	砲丸投 (4.000kg)	渡邊 太陽 10.05 味美	山田 拓斗 9.62 豊国	磯村 尚秀 9.59 鶴城
男子ABC共通	棒高跳	加藤 綾太 3.80 石巻	八谷 希生 石崎龍之介	古知野 鶴城 3.60
	円盤投 (1.500kg)	斎藤寅次郎 33.07 富士	大塚 隆真 32.44 豊橋東部	長谷川 翼 30.64 有松
	ジャベリック スロー	藤井 瑞樹 65.31 愛知陸協	甲斐 優弥 62.74 旭西	中村奨之介 60.86 旭南
男子共通	走高跳	堀井 健史 1.78 TSM	森 康太 1.75 古知野	杉崎 智哉 1.70 鶴城
女子A	100m	長谷川愛樹 12.53 守山北	山本 里菜 12.61 六ツ美北	柴崎 五月 13.07 大高
	200m	鈴木 朱音 26.08 大高	磯部 まみ 26.32 愛知陸協	佐藤 琴美 26.41 とよた AC
	3000m	松井 優実 9.50.78 高豊	宇野 佑紀 10.07.15 常磐	鈴木 純菜 10.10.36 竜海
	100mYH (0.762m)	古橋 佳奈 14.62 桜田	江頭 亜美 14.64 大高	川崎 瞳 15.16 長良
	走高跳	水野 花菜 1.66 TSM	宮田 歩美 1.57 豊国	弓場 真依 1.54 六ツ美
	砲丸投 (4.000kg)	丹鳥あやめ 10.04 北陵	名倉 千遥 9.79 大府西	近藤 沙南 9.39 竜海
	砲丸投 (2.721kg)	高井 萌香 10.31 岩津	鳥居 佑南 10.23 六ツ美	大島 静流 10.16 富士
女子B	100m	都築 美音 12.54 東浦	生田奈緒子 12.97 本郷	小椋 由衣 13.18 甲山
	1500m	市原 和佳 4.35.82 旭南	藤中 佑美 4.40.45 猿投台	中野 紗希 4.43.97 なごや唯レクラブ
	100mH (0.762m)	山本 遼 15.06 竜南	蟻川 真未 15.36 成岩	加藤 紗希 15.60 西尾一色
	走幅跳	富塚日南々 5.48 常滑	神取 空那 5.10 鶴城	矢木絵梨奈 4.98 TSM
	砲丸投 (2.721kg)	高井 萌香 10.31 岩津	鳥居 佑南 10.23 六ツ美	大島 静流 10.16 富士
女子C	100m	中山 愛理 13.17 東浦北部	大城 珠莉 13.34 弥富	竹崎 郁乃 13.42 安祥
	800m	稲葉 朱音 2.20.09 竜海	松原 亜純 2.20.30 とよまJRC	兼原 遥花 2.22.95 甲山
	100mH (0.762m)	松下 陽菜 17.22 TSM	岡田 笑子 17.36 守山東	金井 智穂 17.65 長良
	走幅跳	三輪 未来 4.88 神の倉	伊串 彩夢 4.76 守山西	小船妃那子 4.69 岩津
	砲丸投 (2.721kg)	平岩 志萌 9.55 守山	渡邊 柚帆 9.51 福岡	永石 彩音 9.02 高蔵寺
女子ABC共通	棒高跳	三上かな子 2.60 守山	野中 小夏 2.50 御幸山	2.30 安藤瑠美 東浦北部 黒川真起子 萩山
	円盤投 (1.000kg)	小原 桃華 32.23 大高	小林 弘奈 28.45 刈谷朝日	小畑登紀子 27.32 御幸山
	ジャベリック スロー	武内 泉樹 48.55 北山	河合 愛衣 47.35 武豊	熊崎菜奈子 45.24 TSM
女子共通	走高跳	小笠原早矢楓 1.63 鶴城	夏目さやか 1.53 二川	倉田 実咲 1.53 TSM

第30回日本ジュニア陸上競技選手権大会
第8回日本ユース陸上競技選手権大会
 2014年10月3日(金)～5日(日)3日間
 名古屋市瑞穂公園陸上競技場 本県8位入賞のみ

男子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	6	近藤 晃	愛工大名電高	10.58
200m	3	掛川 真	関西学院大	21.23
	8	児島 大樹	中京大	21.74
棒高跳	2	鈴木 康太	中京大	5.20
走幅跳	7	渡邊圭一郎	中京大中京高	7.31

女子ジュニア

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	4	丹羽愛利彩	中京大	12.03
200m	3	丹羽愛利彩	中京大	24.66
100mH	8	小林紗夕香	安城学園高	14.72
400mH	6	北野 有紀	愛知教育大	1.01.46
走高跳	3	松井 紗希	中京大中京高	1.73
	8	杉浦 澄美	筑波大	1.65
棒高跳	4	今泉 友里	岡崎城西高	3.60
走幅跳	3	石原 薫子	中京大	5.81
三段跳	8	中山 怜佳	至学館大	11.96

男子ユース (=GR:大会タイ記録)

種目	順位	氏名	学校名	記録
200m	8	大崎 慎平	名城大附高	22.26
400mH	7	政岡 薫	中京大中京高	53.73
4×100mR	5	稲垣 晃隆 小川 太郎 青木 滋音 堀場 廉	名古屋高	42.04
棒高跳	2	石川 拓磨	岡崎城西高	5.00 =GR
ハンマー投	7	岩田 知大	一宮北高	52.53

女子ユース

種目	順位	氏名	学校名	記録
100m	2	柴山沙也香	至学館高	11.87
800m	5	向井 智香	至学館高	2.12.43
400mH	3	岩田帆乃夏	中京大中京高	1.00.21
	8	山神 銘鈴	岡崎西高	1.02.46
走高跳	2	中西 美早	岡崎城西高	1.73
	5	佐々木悠里	大府高	1.70
	8	浅井さくら	岡崎城西高	1.67

平成26年度愛知県高等学校定時制通信制秋季体育大会
 2014年10月12日(日) 知多運動公園陸上競技場

男子

(1位のみ)

種目	氏名	校名	記録
100m	斎藤 祐真	豊橋・昼	12.2
200m	田中ガブリエル	豊橋・昼	24.7

400m	日高 丈貴	刈谷東・夜	52.8
800m	松岡 椋太	科技刈谷	2.15.9
1500m	松岡 椋太	科技刈谷	4.47.0
5000m	相川 渉	科技刈谷	19.11.2
400mH	山田 將太	科技刈谷	1.02.9
3000mSC	永井 貴士	中央・昼	11.16.8
4×100mR	廣瀬・斎藤・田中・赤嶺(豊橋・昼)		47.7
4×400mR	坂元・山田・松岡・渡邊(科技刈谷)		3.55.2
走高跳	濱崎 優祐	科技刈谷	1.75
走幅跳	田中 大樹	豊橋・昼	6.23
三段跳	田中 大樹	豊橋・昼	11.27
砲丸投	加藤 宏明	岡崎工	9.29
円盤投	加藤 宏明	岡崎工	29.74
総合	科技刈谷		109点

女子 (1位のみ)

種目	氏名	校名	記録
100m	春田玲穂奈	一宮	14.3
200m	松屋 空	科技刈谷	29.8
400m	松屋 空	科技刈谷	1.08.5
800m	伊東 愛莉	科技刈谷	2.50.5
3000m	高橋 梨子	豊橋・昼	14.51.7
100mH	山口 浩美	豊橋・昼	18.6
4×100mR	齋藤・藤城・豊田・山口(豊橋・昼)		59.5
走高跳	山口 浩美	豊橋・昼	1.55 大会タイ
走幅跳	齋藤 祐未	豊橋・昼	3.84
砲丸投	永津 珠絵吏	明和	8.49
円盤投	稲葉 恭子	明和	23.43
総合	豊橋・昼		77点

平成26年度愛知県高等学校新人対校陸上競技大会
2014年9月27日(土)・28日(日) 名古屋市瑞穂公園陸上競技場

男子 (GR:大会記録)

種目	1位	2位	3位
100m	小川 太郎 10.78 名古屋	大参 祐輝 10.94 名城大附	角谷 俊弥 10.97 日進西
200m	大参 祐輝 21.83 名城大附	小川 太郎 21.86 名古屋	祖父江 巧 22.03 江南
400m	祖父江 巧 47.84GR 江南	浅井 良 48.36 瑞陵	村木 涉真 48.87 千種
800m	中村 光志 1.56.45 旭丘	佐藤 亘 1.57.56 春日井	中村 壮志 1.58.36 松蔭
1500m	飯島 康介 3.56.96 愛知	青木 祐人 3.56.99 愛知	志治 嘉崇 4.03.68 北
5000m	原嶋 溪 15.13.26 刈谷	塚本 亮司 15.20.71 刈谷	齋藤 幹峻 15.21.54 時習館
110mH (1.067m)	政岡 薫 14.62 中京大中京	丹羽 雄太 15.30 尾北	水野 泰介 15.33 一宮
400mH (0.914m)	政岡 薫 56.14 中京大中京	細井 駿作 56.83 岡崎西	丹羽 雄太 56.91 尾北
3000mSC	西嶋 雄伸 9.18.86 名経大高蔵	原嶋 溪 9.20.46 刈谷	鬼頭 直己 9.28.61 愛工大名電
5000mW	持田 顕人 22.31.54 千種	野田 貴太 23.56.09 愛産大三河	増田 翔太 24.16.50 千種

4×100mR	名古屋 41.31 稲垣 晃隆 小川 太郎 青木 滋音 堀場 廉	豊川 41.61 牧 幹也 伊藤 孝哉 和田 瑞輝 原田 剛	愛工大名電 42.16 松尾 隆佑 深谷 隼斗 上戸 慧吾 小島 健晟
	中京大中京 3.21.67 大澤 京介 水野 駿佑 清水 佑 政岡 薫	一宮 3.22.57 水野 泰介 平松 力 小山 航 加藤 嵩大	瑞陵 3.23.75 橋本 磨 浅井 良 杉山 諒太 金山 将成
	鈴木 雅貴 1.97 鶴城丘	福岡 秀太 1.94 中京大中京	北河 大葵 1.94 岡崎城西
棒高跳	石川 拓磨 4.80 岡崎城西	小木曾 光 4.70 中京大中京	千藤 瑛司 4.40 豊川
走幅跳	竹内 飛翔 6.87 豊川	鈴木 力斗 6.76 愛工大名電	安藤 大河 6.73 東海南
三段跳	加藤 準也 14.23 豊川	梶川 凌平 14.06 名東	今井 立登 14.05 一宮北
砲丸投 (6.0kg)	白藤 聖陽 14.20 安城学園	戸澤 廣哉 14.11 岩津	米田 雅隆 12.55 半田
円盤投 (1.750kg)	岩田 知大 39.07 一宮北	杉浦 匠 38.34 碧南工	川田 悠斗 36.39 愛工大名電
ハンマー投 (6.0kg)	山崎 凌弥 51.35 一宮工	岩田 知大 51.25 一宮北	中村 圭志 46.20 長久手
やり投 (800g)	池田 幸平 55.61 安城東	塚本 大利 54.35 半田商	森 賢太郎 54.27 名古屋
総合	中京大中京 36	豊川 28	名古屋 26
トラック	中京大中京 23	刈谷 22	名古屋 21
フィールド	豊川 21	一宮北 21	岡崎城西 13

女子 (GR:大会記録 = GR:大会タイ記録)

種目	1位	2位	3位
100m	柴山沙也香 11.99GR 至学館	浜田 奈子 12.27 愛知	松本 扶弥 12.31 岡崎城西
200m	柴山沙也香 24.60GR 至学館	松本 扶弥 24.91 岡崎城西	吉田 紗弓 25.14 愛知
400m	岩田帆乃夏 55.83GR 中京大中京	一ノ瀬安葉 56.35=GR 愛知	吉田 紗弓 56.63 愛知
800m	向井 智香 2.12.66GR 至学館	大原 芽依 2.15.06 岡崎城西	林 亜紀奈 2.16.61 春日井
1500m	向井 智香 4.32.60 至学館	川口 桃佳 4.34.37 岡崎学園	神谷 亜依 4.35.04 岡崎城西
3000m	西川 優衣 9.51.89 時習館	杉浦穂乃加 9.52.03 愛知黎明	西河原 瑞 9.52.29 岡崎学園
100mH (0.840m)	遠山 実希 14.35 中京大中京	山神 銘鈴 14.72 岡崎西	鈴木 瑞希 14.74 中京大中京
400mH (0.762m)	岩田帆乃夏 1.00.82GR 中京大中京	長屋 美月 1.02.20 中京大中京	山神 銘鈴 1.03.49 岡崎西
5000mW	中川 晴子 25.54.20 旭丘	岩田 奈央 27.04.73 千種	林本 果歩 27.48.46 一宮西
4×100mR	岡崎城西 47.32GR 武山さくら 杉浦 七海 松本 扶弥 杉浦 真穂	愛知 47.53 清水 麻央 一ノ瀬安葉 高間 汐美 吉田 紗弓	中京大中京 47.74 白田菜々美 岩田帆乃夏 遠山 実希 山中今日香
	中京大中京 3.53.77 長屋 美月 山中今日香 遠山 実希 岩田帆乃夏	岡崎城西 3.54.12 武山さくら 杉浦 七海 大原 芽依 松本 扶弥	愛知 3.55.14 清水 麻央 一ノ瀬安葉 清水 爽加 吉田 紗弓
	佐々木悠里 1.70 大府	浅井さくら 1.67 岡崎城西	中西 美早 1.64 岡崎城西
棒高跳	吉長日向子 2.80 名古屋西	宇田 祥菜 2.60 山田	都築 沙月 2.60 三好
走幅跳	明星 光 5.82 豊田	丹羽 智未 5.46 岩倉総合	日比野由奈 5.42 大府

三段跳	丹羽 智未 11.41 岩倉総合	鈴木 萌 11.35 菊華	佐野 綾音 11.33 安城学園
砲丸投 (4.0kg)	石本 瞳 11.14 名古屋大谷	佐藤 真子 11.10 大府	榊原 梨子 10.98 名古屋大谷
円盤投 (1.0kg)	近藤 香 37.65 津島北	松本 莉奈 32.59 岡崎城西	北川 瑠菜 32.02 知立
ハンマー投 (4.0kg)	天野 智菜 39.91 津島北	近藤 香 39.89 津島北	鈴木裕可里 39.37 一宮北
やり投 (600g)	石本 瞳 43.72 名古屋大谷	榊原 梨子 42.50 名古屋大谷	奥村 夏妃 41.40 日進
総合	岡崎城西 56	中京大中京 50	至学館 42
トラック	中京大中京 48	岡崎城西 38	至学館 30
フィールド	名古屋大谷 21	岡崎城西 18	津島北 17

平成26年度愛知県高等学校駅伝競走大会
男子第65回・女子第26回全国高等学校駅伝競走大会愛知県予選会
 2014年11月2日(日) 知多運動公園陸上競技場～市道北浜金沢線
 (男子:42.195km・女子:21.0975km)

順位	男子		女子	
	学校名	タイム	学校名	タイム
1	愛知	2:07.50	豊川	1:08.29
2	豊川工	2:08.58	岡崎学園	1:10.53
3	豊川	2:09.17	中京大中京	1:12.38
4	中京大中京	2:11.48	千種	1:13.16
5	岡崎城西	2:12.51	至学館	1:13.28
6	愛工大名電	2:13.31	岡崎城西	1:13.42

第69回国民体育大会
 2014年10月18日(土)～22日(水) 長崎県立総合運動公園陸上競技場

成年男子 (入賞と自己新記録)

種目	順位	氏名	所属	記録
400mH	4	中村 明彦	スズキ浜松 AC	50.62
走幅跳	5	木村 友紀	愛知陸協	7.72
棒高跳	2	山本 聖途	トヨタ自動車	5.50

成年女子

種目	順位	氏名	所属	記録
100m	3	市川 華菜	ミズノ	11.87
400m	2	市川 華菜	ミズノ	54.14 県新
1500m	9	竹内麻里子	中京大	4:25.85 自己新
10000mW	4	前川 知美	三菱自動車岡崎	47:01.50

少年男子

種目	順位	氏名	所属	記録
A	100m	2	近藤 晃	愛工大名電 10.56
	ハンマー投	3	古旗 崇裕	名古屋大谷高 59.24
B	100m	予4	中澤 悠哉	豊川高 10.87 自己新
	砲丸投	9	白藤 聖陽	安城学園高 15.43 自己新

少年女子

種目	順位	氏名	所属	記録
A	100m	1	柴山沙也香	至学館高 11.75 県高新・自己新
	400mH	3	岩田帆乃夏	中京大中京高 59.76 自己新
	ハンマー投	3	大久保祥子	長久手高 51.16
B	200m	8	中野 真琴	安城学園高 24.99
共通	800m	6	向井 智香	至学館高 2:11.17 予選自己新 (2:09.42)

成年少年男子共通

種目	順位	氏名	記録
4×100mR	4	西垣佳哉、寺田健人、中澤悠哉、近藤晃	39.81 予選県新 (39.43)

成年少年女子共通

種目	順位	氏名	記録
4×100mR	1	白田菜々美、市川華菜、柴山沙也香、丹羽愛利彩	45.86

男女総合(天皇杯):6位(95点)

女子総合(皇后杯):4位(61点)

男子

区間	氏名	学校名	記録
第1区(10km)	谷川 貴俊	豊川	30.44
第2区(3km)	長谷川 令	豊川	8.30
第3区(8.1075km)	山藤 篤司	愛知	24.30
第4区(8.0875km)	青木 祐人	愛知	24.24
第5区(3km)	ワイセラサイモンムワソギ	豊川	8.30
第6区(5km)	飯島 康介	愛知	15.04
第7区(5km)	小野田勇次	豊川	15.00

女子

(*:区間新)

区間	氏名	学校名	記録
第1区(6km)	鷺見 梓沙	豊川	*18.35
第2区(4.0975km)	堀 優花	豊川	13.24
	西河原 瑞	岡崎学園	
第3区(3km)	森藤 凪	豊川	10.03
第4区(3km)	榊原 海紗	豊川	9.50
第5区(5km)	猿見田裕香	豊川	16.37

第28回愛知県小学生陸上競技選手権大会
 2014年11月3日(月・祝) 瑞穂公園陸上競技場

少年

種目	1位	2位	3位
4年50m	石田 大河 7.49 AC一宮	古賀 藍翔 7.66 東浦 AC	中西尊琉 7.69 小牧ジュニア
5年100m	小幡 岳人 13.89 TSM	判家 悠也 14.15 豊川 AC	笹口 翔矢 14.22 TFC 半田
6年100m	澤 孝輔 12.75 きらめき AC	深瀬 京佑 12.87 豊川 AC	近田 亘 13.10 豊川 AC
5年80mH	中井 康揮 13.72 なごや陸上	加藤 昇太 14.11 安城北部小	加藤 隼輝 14.41 TSM
6年80mH	鈴木 大河 12.57 TSM	西山 雄吾 13.07 TSM	山本 陽平 13.15 豊川 AC
6年4×100mR	安城 JAC 51.85	豊川 AC 52.48	豊橋陸上クラブ 52.50
	山並 星南 谷口 智紀 長田 峻汰 松浦 孝之	新垣 颯斗 深瀬 京佑 鈴木 優斗 近田 亘	橋本 佑輔 村瀬 俊哉 加藤 大樹 小嶋 暁
5年走高跳	西 徹朗 1.25 TSM	鈴木 啓太 1.20 豊橋陸上クラブ	神谷 隆星 1.20 安城北部小
6年走高跳	早川 諒 1.30 東浦 AC	小瀧 愛都 尚 豊川 AC	豊橋陸上クラブ 1.30
4年走幅跳	亀山 聡太 4.38 TSM	川島 晴 4.10 安城北部小	田中 瑛一 4.08 田原陸上クラブ
5年走幅跳	上村耕志郎 4.61 豊橋陸上クラブ	久米 晃史 4.47 JAC 武豊	東 誠太郎 4.12 TSM

6年 走幅跳	後藤凌太郎 4.56 布袋陸上ク	井上 大輔 4.38 安城 JAC	六井 友章 4.34 刈谷 AC
5年 ソフトボール投	中村 颯佑 49.85 作野 AC	保坂 隼範 47.04 里町 AC	淀川 颯太 45.93 安城北部小
6年 ソフトボール投	豊嶋 駿介 69.41 辻クラブ	大野 雄士 59.83 なごや陸上	石山慎之助 55.43 里町 AC
6年 二種競技A	水野 匠 1350 TSM	小嶋 暁 1304 豊橋陸上クラブ	村瀬 俊哉 1173 豊橋陸上クラブ
6年 二種競技B	谷口 智紀 1609 安城 JAC	三ヶ尻祐大 1338 TSM	新垣 颯斗 1334 豊川 AC

少女 (PR: 県新記録 GR: 大会新記録)

種目	1位	2位	3位
4年 50m	土居 幸愛 7.55 岡崎 JAC	矢野 萌果 7.76 TSM	菅沼 瑠璃 7.85 田原陸上クラブ
5年 100m	大城 莉夢 14.07 十四山体育クラブ	藤原古都羽 14.19 岡崎 JAC	土居 心愛 14.29 岡崎 JAC
6年 100m	谷口 琴音 13.49 岡崎 JAC	新庄 理子 13.58 豊橋陸上クラブ	野原めぐみ 13.75 なごや陸上
5年 80mH	猪熊 紗伎 14.39 TSM	新垣 舞桜 14.66 豊川 AC	那波 憩 14.90 安城北部小
6年 80mH	伊藤 凜乃 12.69 PR GR TSM	榊原 弘乃 13.07 成岩 SC 陸上	岸田 希望 13.15 JAC 武豊
6年 4×100mR	安城 JAC 54.25 安藤 百萌 本田 菜摘 稲垣 瑠菜 大嶋 紗弥	岡崎 JAC 55.30 馬場真由花 谷口 琴音 藤原古都羽 岡田 凜	豊橋陸上クラブ 55.37 松下奈那音 生田 桃子 中西なつ美 新庄 理子
5年 走高跳	脇田ライラ 瑠梨果 1.33 PR GR TSM	鈴木 双葉 1.25 岡崎 JAC	近藤 優衣 1.20 刈谷 AC
6年 走高跳	易永 花音 1.35 知立ジュニア	横山こころ 1.30 豊橋陸上クラブ	白鳥 百花 1.30 TSM
4年 走幅跳	竹内はつき 3.77 たかはま陸上	榊原 未彩 3.63 たかはま陸上	彦坂 美玖 3.51 田原陸上クラブ
5年 走幅跳	小嶋 彩華 4.02 知立ジュニア	小島 皇 3.95 蒲郡クラブ	高寄 桃花 3.95 TSM
6年 走幅跳	三矢 遥菜 4.39 いっしき陸上	鷹羽 未結 4.38 東浦 AC	前田あすか 4.17 AC 一宮
5年 ソフトボール投	稲田 涼花 34.16 TSM	中嶋 詩乃 33.72 安城北部小	荒木 遥奈 30.85 JAC あつみ
6年 ソフトボール投	国府 亜実 48.83 なごや陸上	安井 那月 47.87 JAC 豊明	山田 由佳 44.98 里町 AC
6年 二種競技A	安藤 百萌 1561 安城 JAC	松下奈那音 1558 豊橋陸上クラブ	鏡味 咲耶 1543 成岩 SC 陸上
6年 二種競技B	天野ユリヤ 1669 TSM	椋山奈津子 1560 きらめき AC	吉村 真星 1524 東浦 AC

男女混合

種目	1位	2位	3位
4年 4×100mR	豊橋陸上クラブ 1.00.42 町田 心奈 森山 夢菜 鶴飼 晃斗 塚本 泰晟	TSM 1.00.42 坂口 由花 矢野 萌果 亀山 聡太 斎藤 大雅	AC 一宮 1.00.89 井貝 華央 杉本 遥 釜田 峻羽 石田 大河
5年 4×100mR	TSM 57.13 松本佳音彩 松山明里咲 高橋 隼人 小幡 岳人	安城 JAC 57.33 渡邊 亜希 清水南菜美 山田 泰生 安藤 優羽	豊橋陸上クラブ 57.55 道川 子音 筒井 玲奈 榮 墨唯 上村耕志郎

理事会等会議報告

○8月理事会 平成26年8月8日(金) 18:00 教育会館

1 協議事項

- ①第68回国民体育大会愛知県代表選手団(役員・選手)の選考について
- ②その他

2 報告事項

- ①国体代表選手の強化合宿について
- ②全国高校陸上競技大会の成績について
- ③日本ジュニア・ユース選手権大会について
- ④マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知2015について
- ⑤第40回全日本中学校陸上競技選手権大会について
- ⑥日本選手権誘致について
- ⑦愛知陸協80周年記念事業について
- ⑧各専門委員会報告
- ⑨その他 (水野 隆夫)

栄章

おめでとうございます

平成26年10月18日(土)～22日(水)第69回国民体育大会「長崎がんばらんば国体」において、会場の「長崎県立総合運動公園陸上競技場(諫早市)」で表彰式が行なわれました。

日本陸上競技連盟より表彰を受けられた方は次の皆様です。心よりお祝い申し上げます。



(秩父宮章) …日本陸連・加盟団体への功労者

若松 良一(愛知陸協監事)

(高校優秀指導者章) …高校生指導者としての功労者

森 安彦(豊川高等学校)

(中学優秀指導者章) …中学生指導者としての功労者

久米 裕朗(富士中学校)

(水野 隆夫)

編集後記

◇愛知陸協創立80周年は誠に喜ばしい。これまでの各々の立場の方たちの努力の賜である。先人の努力を受け継ぎ、さらに発展させる使命を感じる。◇駅伝・ロードレースの季節となった。新しい喜びを見つきたい。◇寄稿に感謝。

編集委員

大西 敏功 小坂 拓 竹前 正直 茶谷 和彦
新見 精三 西垣 完彦 野口 一昭 山下ゆかり
横田小百合